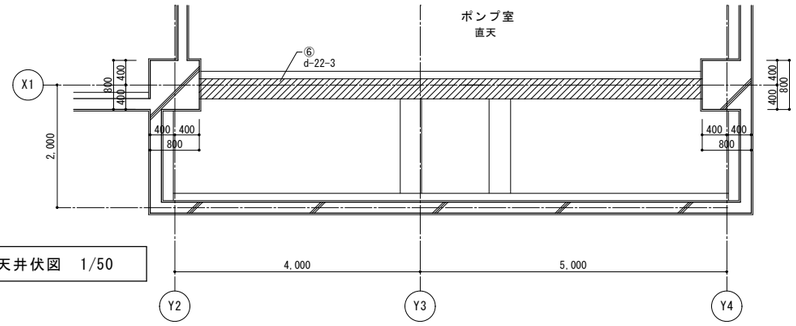
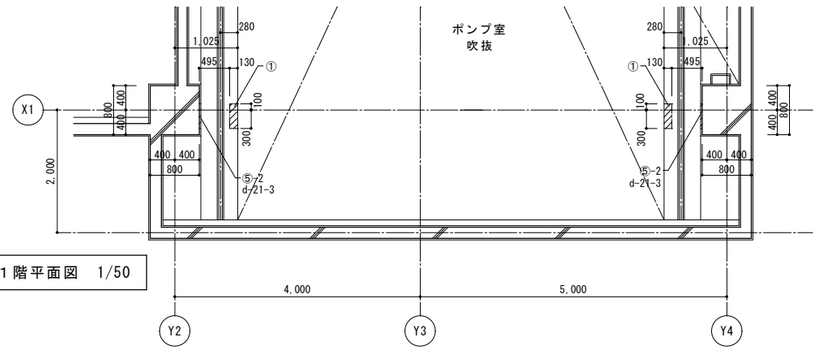
Z-2 T　換気シャフト　（改修前）

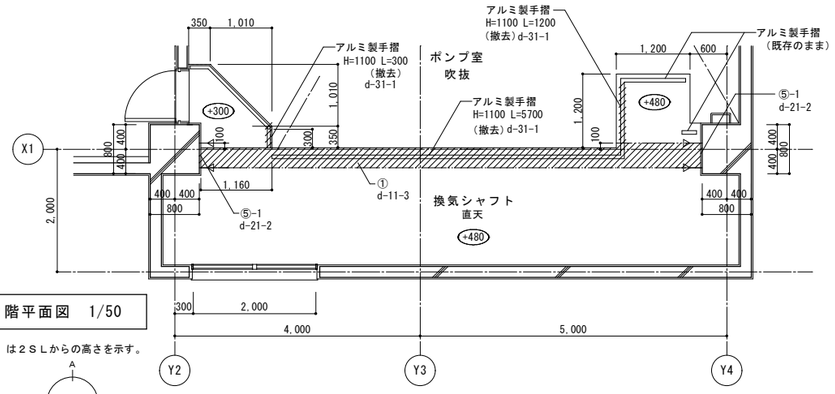
行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 ２階展開図（３）（改修前）		
図面番号	D-19	縮尺	1/50



天井伏図　1/50

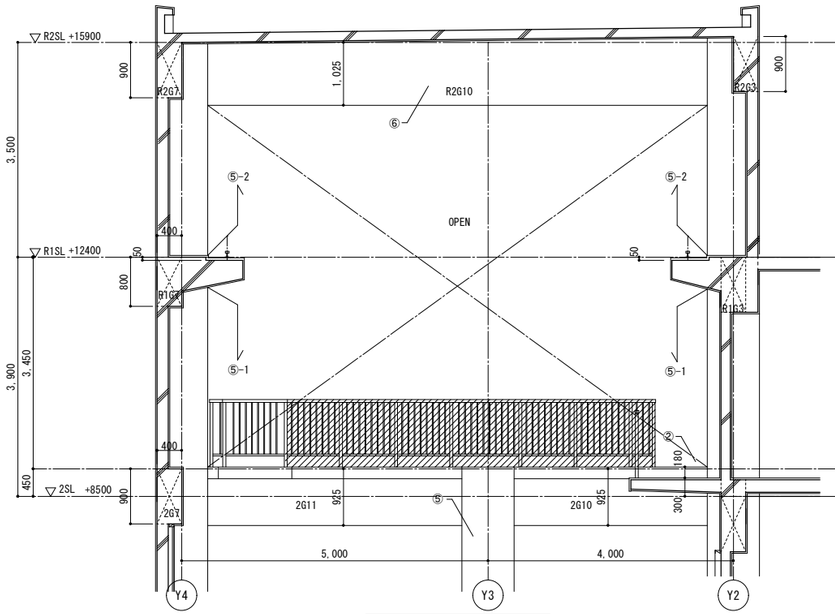


Ｒ１階平面図　1/50

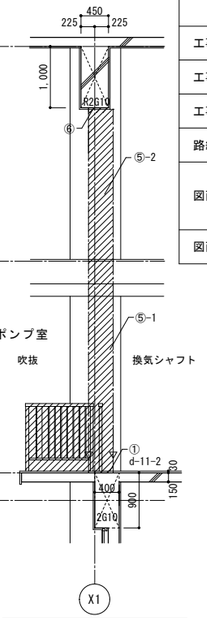


２階平面図　1/50

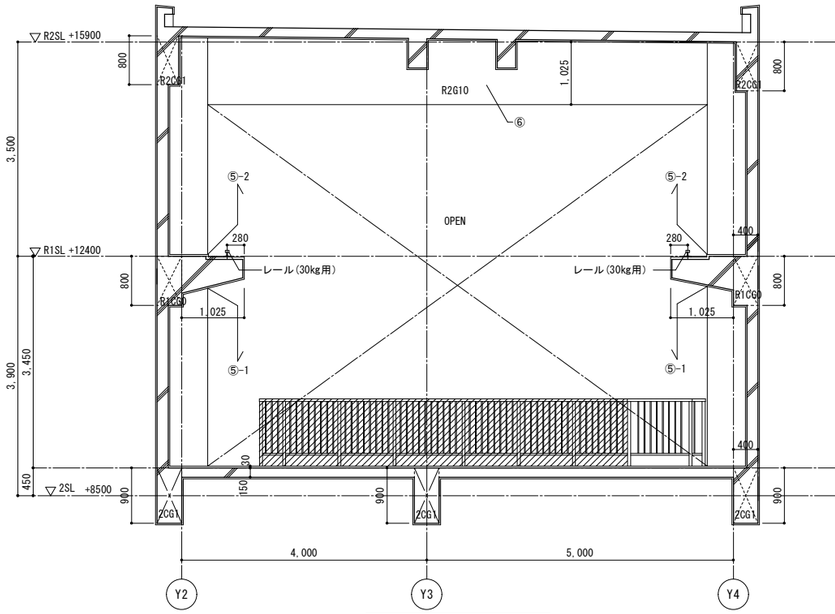
±0　は２ＳＬからの高さを示す。



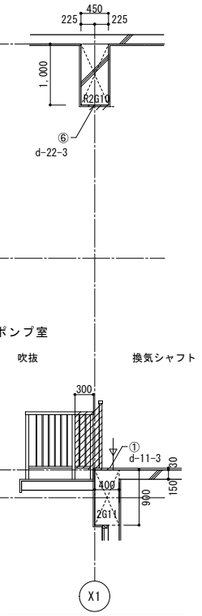
内部Ｃ展開図　1/50　（ポンプ室　吹抜）



内部Ｂ展開図　1/50



内部Ｃ展開図　1/50　（換気シャフト）



内部Ｂ展開図　1/50

凡例

改修前	改修後
はｶｯﾀｰ入れ部分を示す。	は改修部分を示す。
はｶｯﾀｰ入れ部分を示す。	は既存部分を示す。
は撤去部分を示す。	はシーリング10×10を示す。
は壁仕上げ撤去部分を示す。	は壁仕上げ新設部分を示す。

ポンプ室（吹抜）

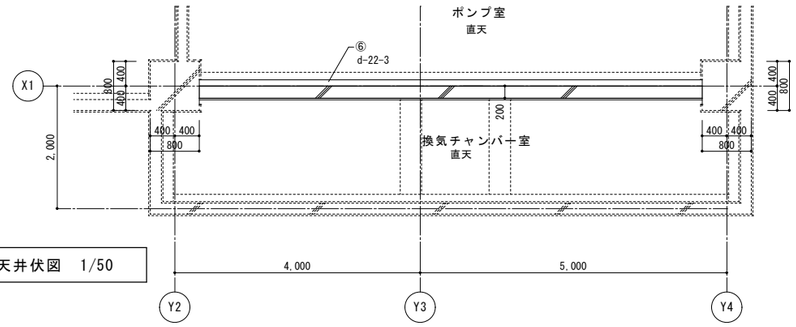
		改修前		改修後
床	①			
巾木	②	モルタル巾木　H=260		既存のまま
壁	③	Ｃ打放し　吹付岩綿 t=25		既存のまま
	③-新			新設壁：Ｃ打放し
天井	④	木毛板打込 t=25の上 吹付岩綿 t=25		既存のまま
柱型	⑤-1	Ｃ打放し	モルタル t=25	同左
	⑤-2		吹付岩綿 t=25	
梁型	⑥	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	⑥-新			新設壁：Ｃ打放し

換気シャフト　→　換気チャンバー室

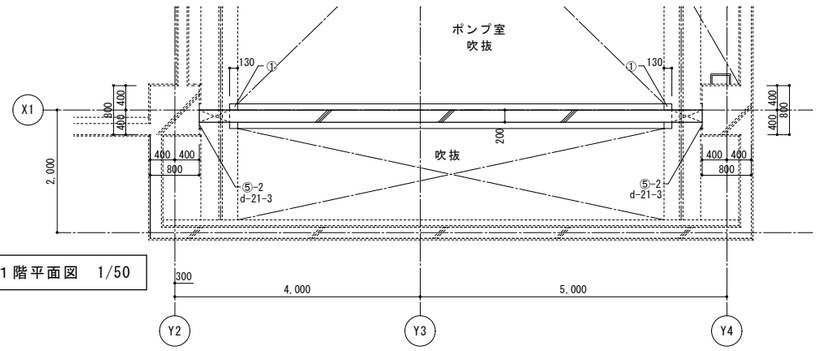
		改修前		改修後
床	①	Ｃ直均し モルタル仕上 t=30		同左
巾木	②	モルタル巾木　H=260		既存のまま
壁	③	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	③-新			新設壁：Ｃ打放し
天井	④	木毛板打込 t=25の上 吹付岩綿 t=25		既存のまま
柱型	⑤-1	Ｃ打放し	モルタル t=25	同左
	⑤-2		吹付岩綿 t=25	
梁型	⑥	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	⑥-新			新設壁：Ｃ打放し

Z-2 K　換気チャンバー室　（改修後）

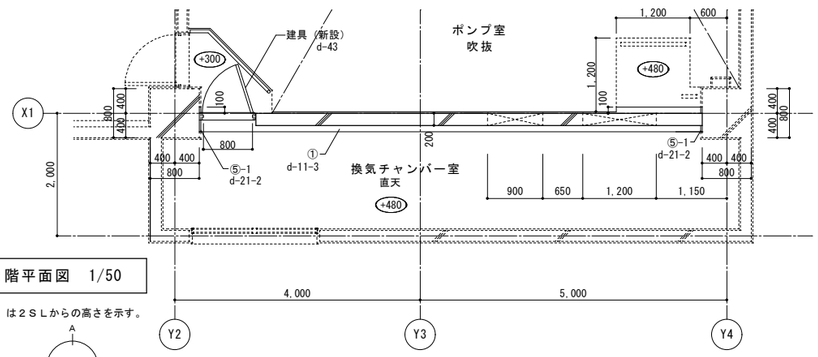
行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 ２階展開図（４）（改修後）		
図面番号	D-20	縮尺	1/50



天井伏図　1/50

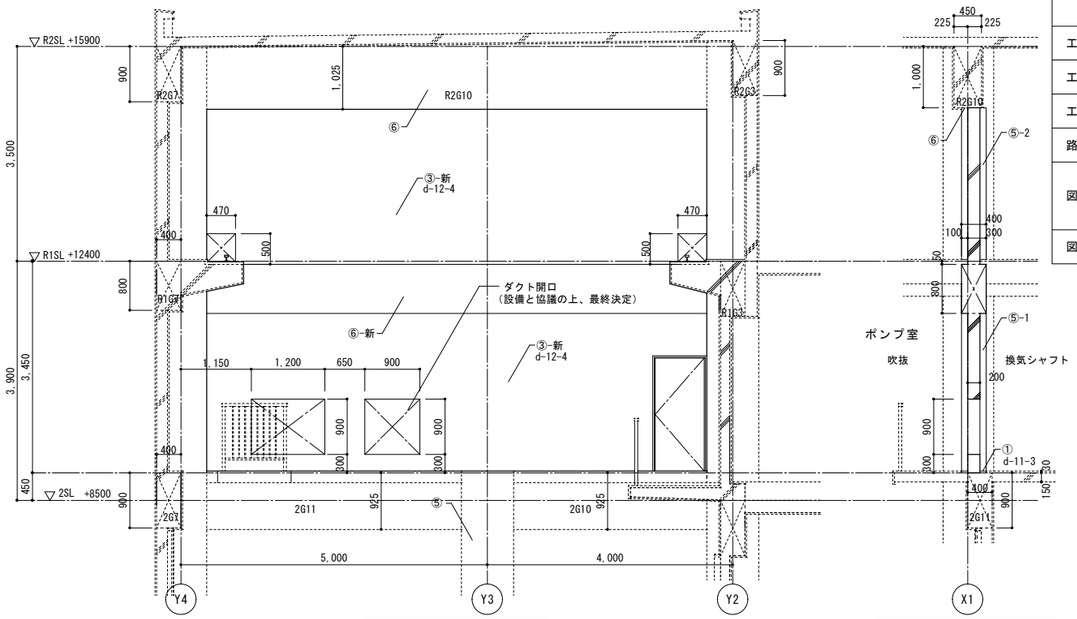


Ｒ１階平面図　1/50



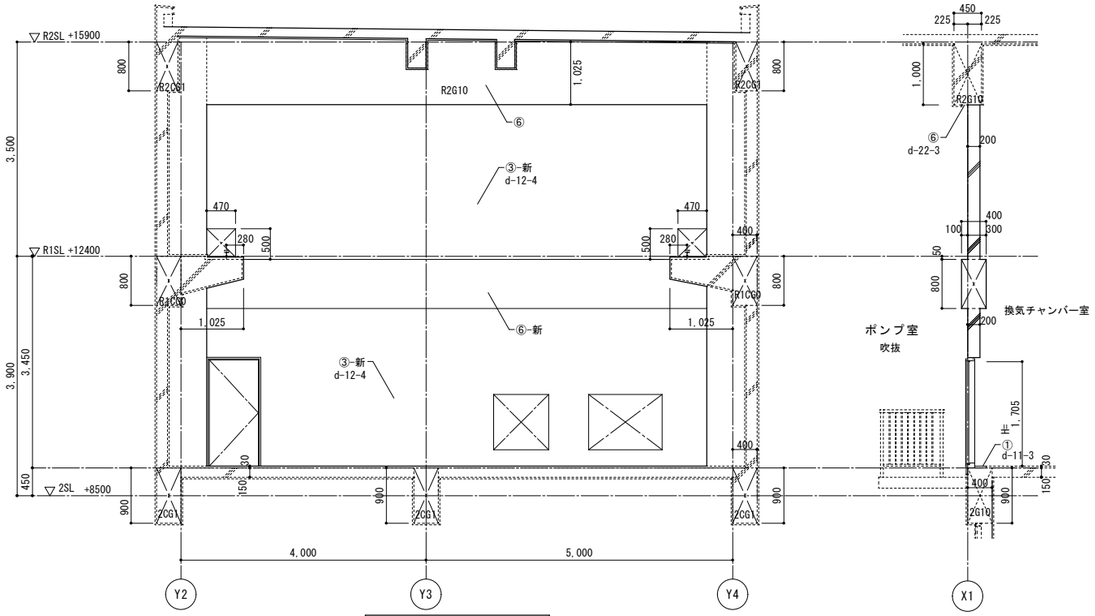
２階平面図　1/50

±0 は２ＳＬからの高さを示す。



内部Ｃ展開図　1/50　（ポンプ室　吹抜）

内部Ｂ展開図　1/50



内部Ａ展開図　1/50　（換気チャンバー室）

内部Ｂ展開図　1/50

凡例

改修前	改修後
はｶｯﾀｰ入れ部分を示す。	は改修部分を示す。
はｶｯﾀｰ入れ部分を示す。	は既存部分を示す。
は撤去部分を示す。	はシーリング10×10を示す。
は壁仕上げ撤去部分を示す。	は壁仕上げ新設部分を示す。

ポンプ室（吹抜）

		改修前		改修後
床	①			
巾木	②	モルタル巾木　H=260		既存のまま
壁	③	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	③-新			新設壁：Ｃ打放し
天井	④	木毛板打込 t=25の上 吹付岩綿 t=25		既存のまま
柱型	⑤-1	Ｃ打放し	モルタル t=25	同左
	⑤-2		吹付岩綿 t=25	
梁型	⑥	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	⑥-新			新設壁：Ｃ打放し

換気シャフト　→　換気チャンバー室

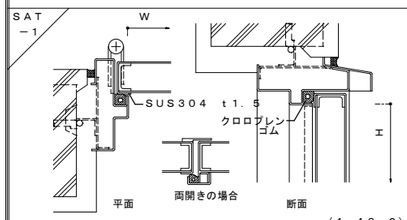
		改修前		改修後
床	①	Ｃ直均し モルタル塗 t=30		同左
巾木	②	モルタル巾木　H=260		既存のまま
壁	③	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	③-新			新設壁：Ｃ打放し
天井	④	木毛板打込 t=25の上 吹付岩綿 t=25		既存のまま
柱型	⑤-1	Ｃ打放し	モルタル t=25	同左
	⑤-2		吹付岩綿 t=25	
梁型	⑥	Ｃ打放し	吹付岩綿 t=25	既存のまま
	⑥-新			新設壁：Ｃ打放し

建具枠廻り詳細及び記号　（鋼製・鋼製軽量建具）　（ー ー）は標準図番号に準ずる

行橋市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 建具枠廻り及び記号		
図面番号	D-21	縮尺	―

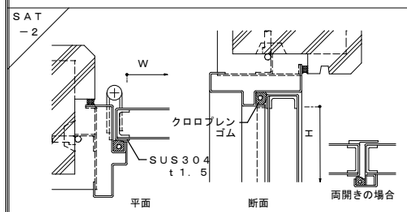
鋼製建具（簡易気密）

SAT－1



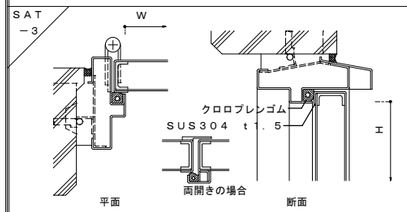
（4－43－2）

SAT－2



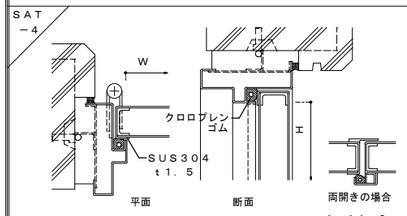
（4－43－3）

SAT－3



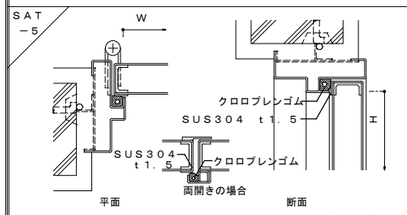
4－44－2

SAT－4



4－44－3

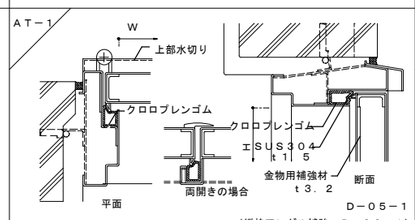
SAT－5



（4－45－2）

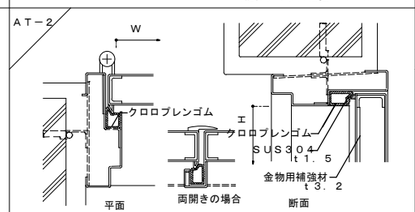
鋼製建具（気密）

AT－1



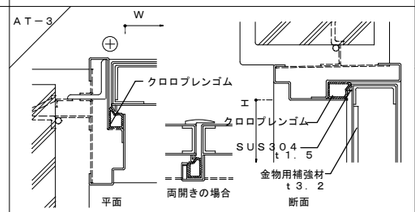
D－05－1
（縦枠アングル補強　D－06－1）

AT－2



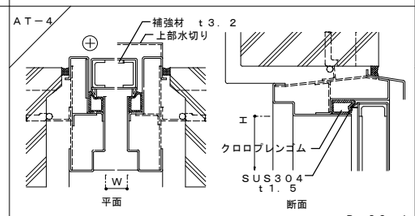
D－07－1

AT－3



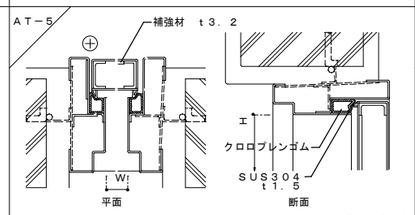
D－08－1

AT－4



D－09－1

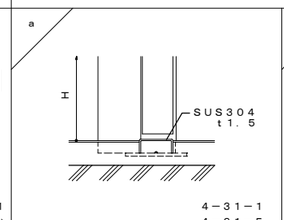
AT－5



D－10－1

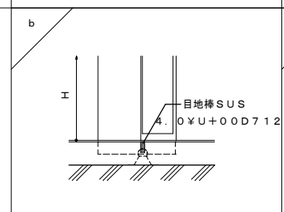
くつずり

a



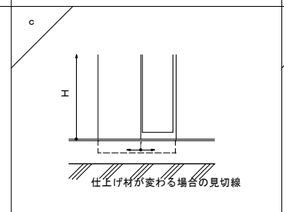
4－31－1
4－31－5

b



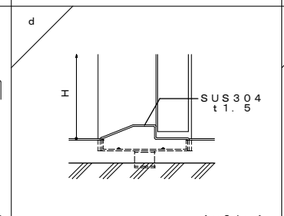
4－31－2

c



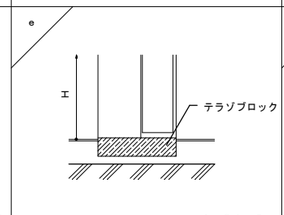
4－31－3

d



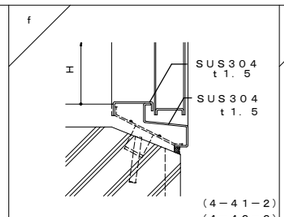
4－31－4

e



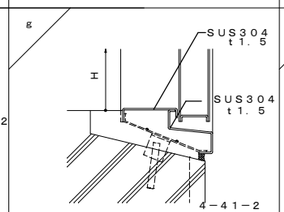
4－31－6

f



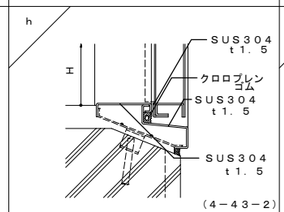
（4－41－2）
（4－42－2）

g



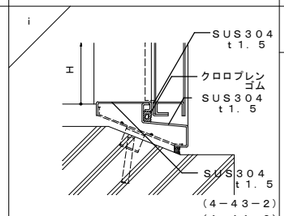
4－41－2
4－42－2

h



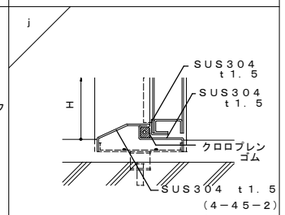
（4－43－2）
（4－44－2）

i



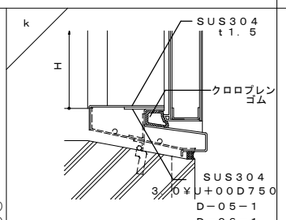
（4－43－2）
（4－44－2）

j



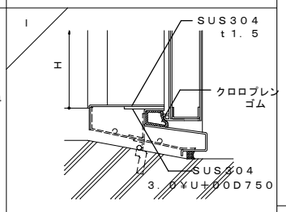
（4－45－2）
（4－45－4）

k

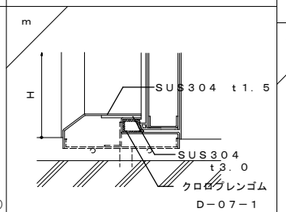


D－05－1
D－06－1

l



m



D－07－1
D－08－1

ガラリ形状

イー1

イー1　SG　開口率　30%

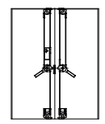
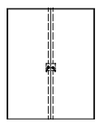
ロー1

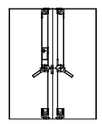
ロー1　SG　開口率　30%

ハー1

ハー1　SG　開口率　30%

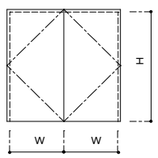
大型、気密ドアの仕様　D－01－1，D－02－1

	大型鋼製建具（外部用）	大型鋼製建具（内部用）
姿図		
	H ＞ 2，400 W ＞ 950	H ＞ 2，400 W ＞ 950
一般丁番　（150）	形状別扉見込寸法、丁番表による。	
大型丁番		

気密型鋼製建具	
	
H ≧ 2，100 W ≧ 950	H ≧ 2，100 W ≧ 950
形状別扉見込寸法、丁番表による。	

※　扉面積２．５ｍ　以上の場合は大型戸当り、あおり止めを設ける。　［D－01－1］

ドア見込み及び丁番表



1）　［　］内数値は扉の見込寸法を示す。

2）　※は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」による。

［D－02－1］

H ＼ W	950以下		1，250未満		1，500未満		1，750未満	
	大型	気密	大型	気密	大型	気密	大型	気密
2，000未満	※	［40］ 一般（150） 3 枚	［40］ 一般（150） 3 枚	［40］ 一般（150） 3 枚	［50］ 大型 3 枚	［50］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚
2，400以下	※	［50］ 一般（150） 3 枚	［40］ 一般（150） 3 枚	［50］ 大型 3 枚	［50］ 大型 3 枚	［50］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚
3，000未満	［50］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［60］ 大型 3 枚	［80］ 大型 3 枚
3，500未満			［60］ 大型 3 枚	［80］ 大型 4 枚	［60］ 大型 3 枚	［80］ 大型 4 枚	［60］ 大型 3 枚	［80］ 大型 4 枚

共通事項

1．特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。
　但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2．パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）
　とする。（内部サムターン付）
3．便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4．ＡＨ、ＦＨを除きＤＣの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。
　壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）
5．特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6．アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から１，５００以内とする。
7．大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8．特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。
9．特記なき限り鋼製戸の見込みは４０mmとする。
10．防火戸の位置は建具配置図による。
11．特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の
　充填は行わないものとする。
12．階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
13．特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付と
　する。
14．特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木製	WD	WW	WG		P	H		

ガラス略号

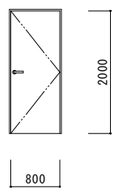
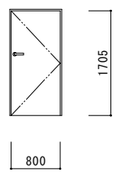
F	型板ガラス
P	フロート板ガラス
NF	網入型板ガラス
NP	網入みがき板ガラス

金物略号

DC	ドアクローザー
AH	オートヒンジ
FH	フロアヒンジ
PH	ピボットヒンジ

200603

建具　リスト　　1/50

		新設					
符号・名称・個数		(101 SD) スチール製片開きフラッシュ戸　1ヶ所	(102 SD) スチール製片開きフラッシュ戸　1ヶ所				
場所		換気チャンバー室	換気チャンバー室				
	仕上（枠共）	ＤＰ（１級フッ素樹脂系）	ＤＰ（１級フッ素樹脂系）				
建具	見込　（ランマ）	４０	４０				
	硝子　（ランマ）						
	ガラリ						
建具枠	見込取合　沓摺	１５０	１５０				
枠記号　沓摺（水切）記号		ＡＴ－２　（ｍ）	ＡＴ－２　（ｋ）				
建具金物		両面締まりハンドル，あおり止め ＤＣ，戸当り，一般丁番（３枚）	両面締まりハンドル，あおり止め ＤＣ，戸当り，一般丁番（３枚）				
その他		ＡＴ　特防	ＡＴ　特防				
形状・寸法							

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 建具表		
図面番号	D-22	縮尺	1/50

符号・名称・個数					
場所					
	仕上（枠共）				
建具	見込　（ランマ）				
	硝子　（ランマ）				
	ガラリ				
建具枠	見込取合　沓摺				
枠記号　沓摺（水切）記号					
建具金物					
その他					
形状・寸法					

撤去（枠共撤去）

記号	開口種別	幅×高さ	扉見込	建具枠	ガラス	撤去個数	撤去箇所（撤去個数）
(3 SD)	スチール製片開き扉	900×2000	40	120		1ヶ所	１階ポンプ室
(2 AG)	アルミ製固定ガラリ	2400×2400				1ヶ所	２階換気シャフト室

ＡＴ：気密扉を示す　ＳＰ：防音扉を示す（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填）
ＡＴ：防臭扉を示す
ＨＩ：断熱扉を示す（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填）
ＷＴ：水密扉を示す

ＳＡＴ：簡易気密扉を示す

防：防火設備を示す
特防：特定防火設備を示す

＊ ｽﾃﾝﾚｽ製建具の内部補強材はｽﾃﾝﾚｽ製とする

共通事項

1．特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締りとする。
2．パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部はサムターン付）
3．便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4．ＡＨ、ＦＨを除きＤＣの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）
5．特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6．アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から１，５００以内とする。
7．大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8．特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。（枠廻り詳細による。）
9．特記なき限り鋼製戸の見込みは４０mmとする。
10．防火戸の位置は建具配置図による。
11．特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
12．階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
13．特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
14．特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	ＡＤ	ＡＷ	ＡＧ	ＡＯＤ			ＡＳ	ａＷ
鋼製	ＳＤ	ＳＷ	ＳＧ	ＳＯＤ			ＳＳ	
鋼製軽量	ＬＤ						ＬＳ	
ステンレス製	ＳＳＤ	ＳＳＷ	ＳＳＧ				ＳＳＳ	
木製	ＷＤ	ＷＷ	ＷＧ		Ｐ	Ｈ		

ガラス略号

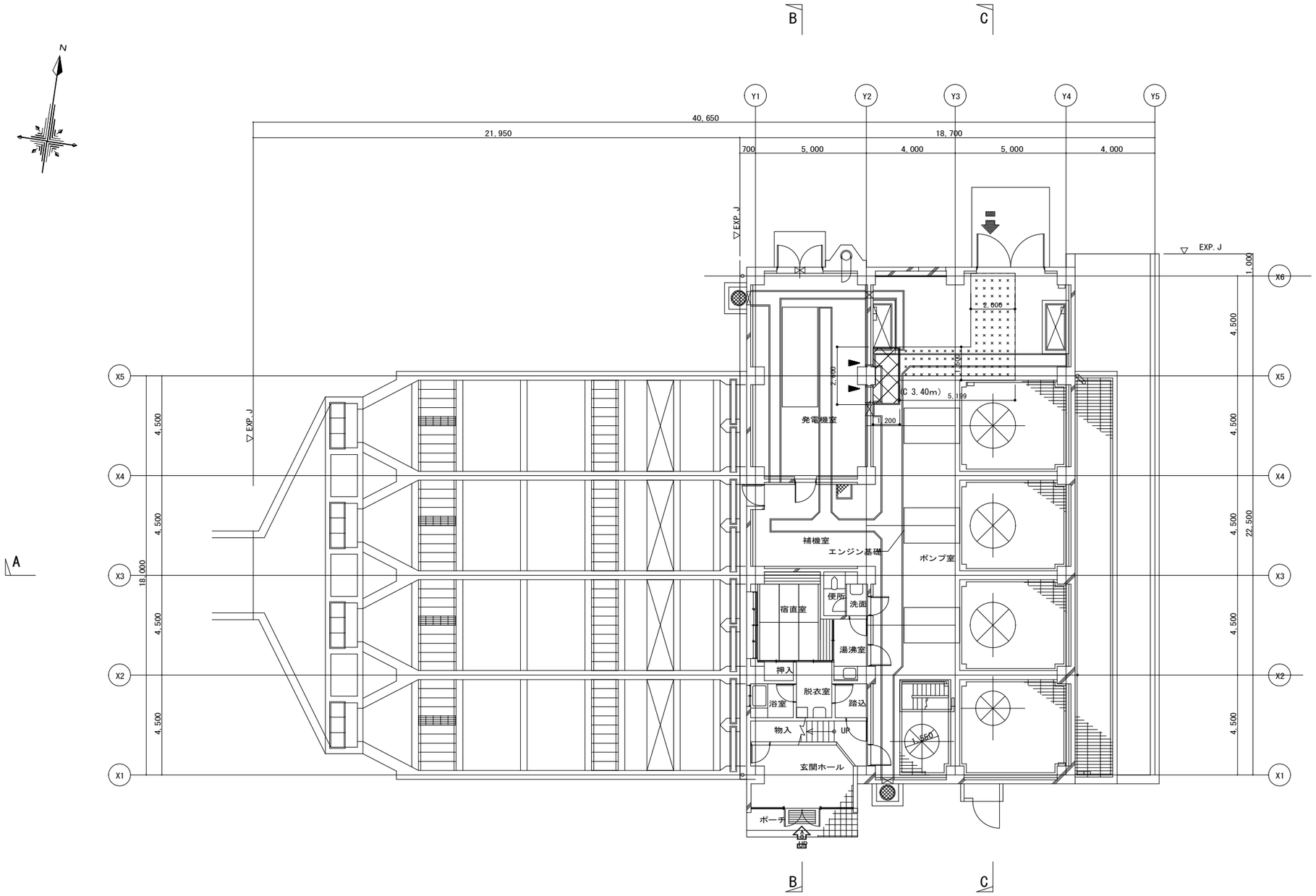
Ｆ	型板ガラス
Ｐ	フロート板ガラス
Ｎ	網入型板ガラス
ＮＰ	網入みがき板ガラス

金物略号

ＤＣ	ドアクローザー
ＡＨ	オートヒンジ
ＦＨ	フロアヒンジ
ＰＨ	ピボットヒンジ

第1工区

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 １階仮設計画平面図（参考図）		
図面番号	D-23	縮尺	1/100



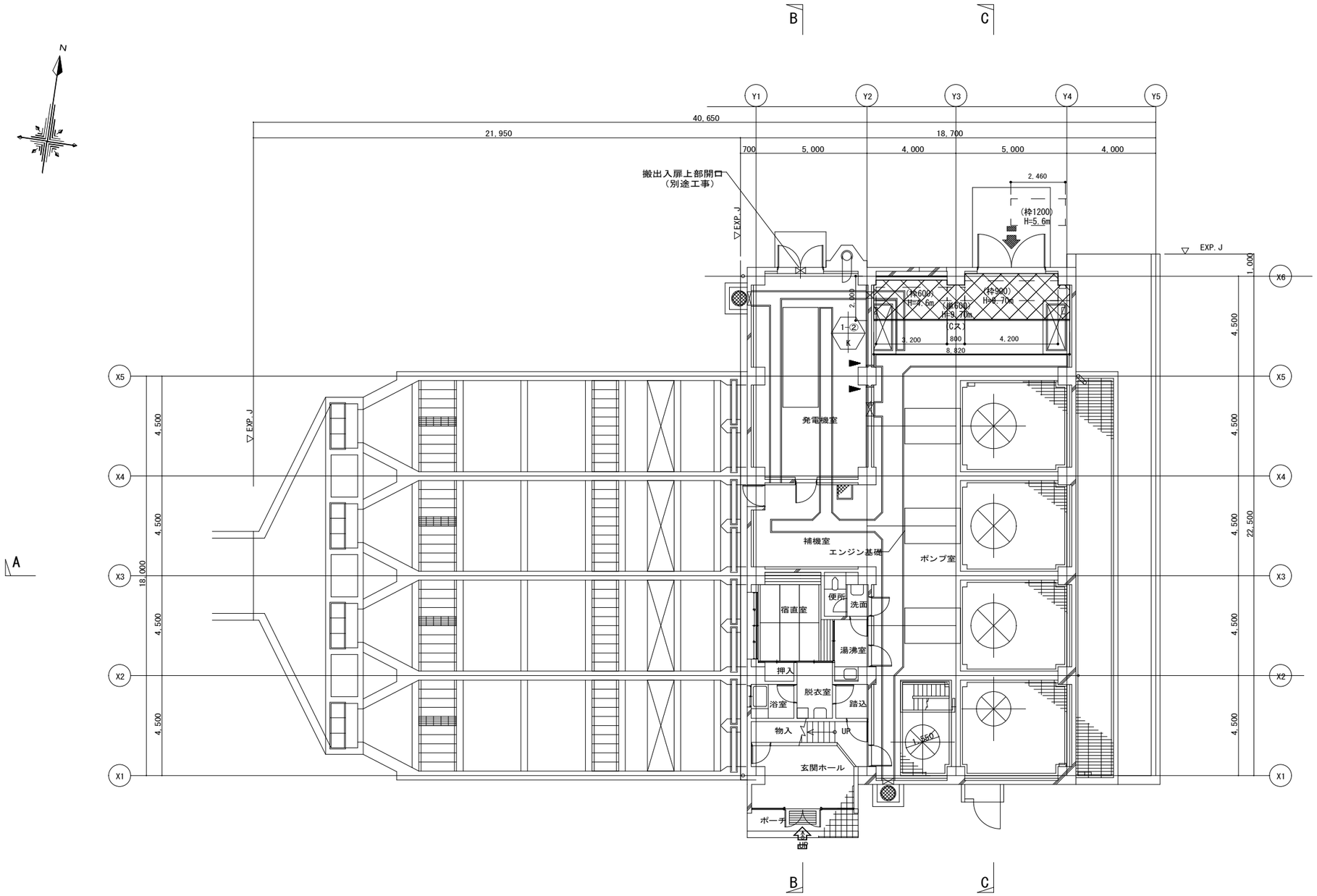
１階平面図　1/100

凡例

(Aス)	仮設間仕切り(A種) スラブ下まで		工事スペース		RC壁増壁を示す	(枠1200)	枠組足場1200巾	(単1200)	単管足場1200巾
(Bス)	仮設間仕切り(B種) スラブ下まで		資材搬入通路		工事用動線、資材搬入	(枠900)	枠組足場900巾	(単900)	単管足場900巾
(Cス)	仮設間仕切り(C種) スラブ下まで		維持管理通路、資材搬入通路（兼用）		維持管理動線	(枠600)	枠組足場600巾	(単600)	単管足場600巾
(COOm)	仮設間仕切り(C種) ○○mまで								

第2工区

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 １階仮設計画平面図（参考図）		
図面番号	D-24	縮尺	1/100



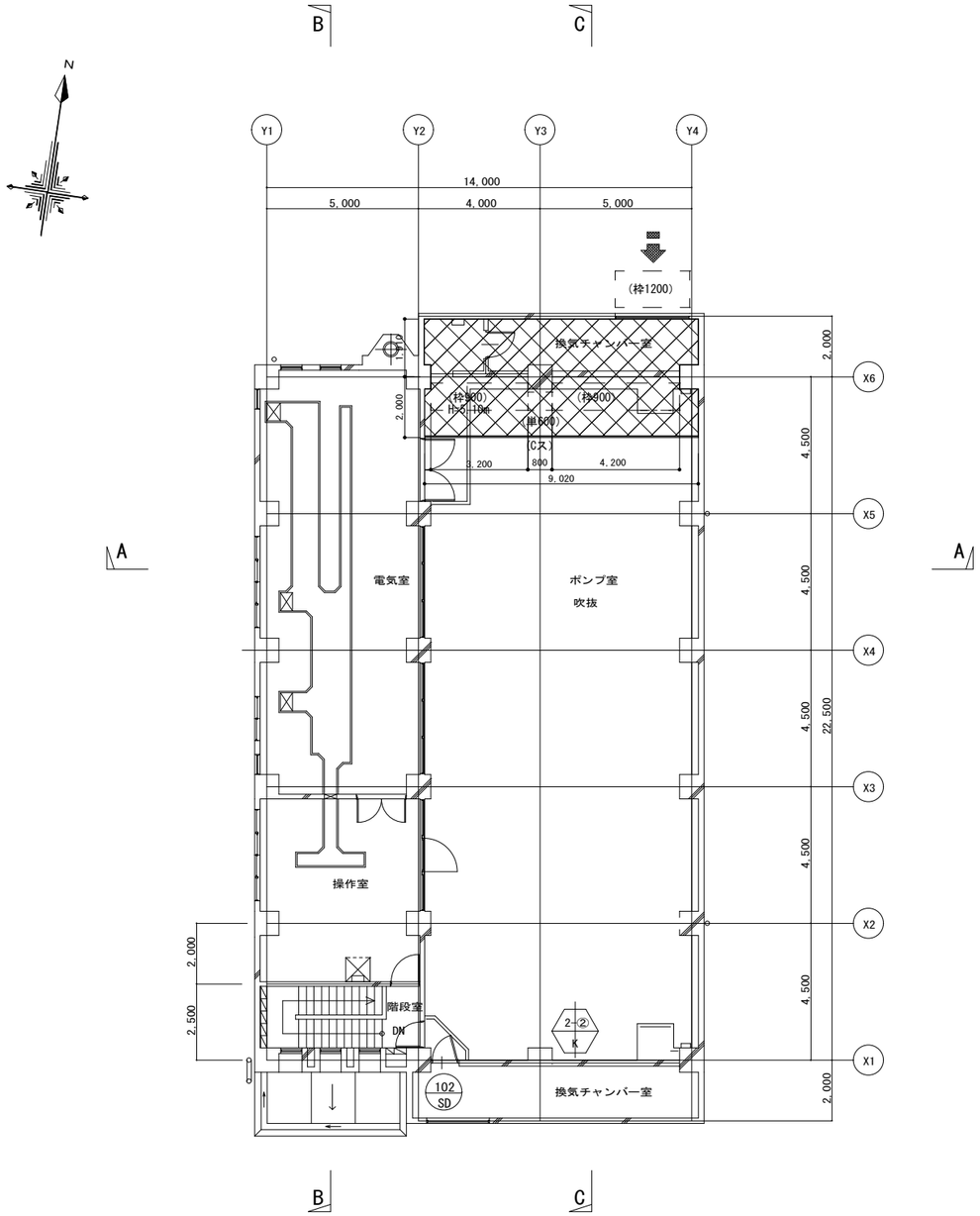
１階平面図　1/100

凡例

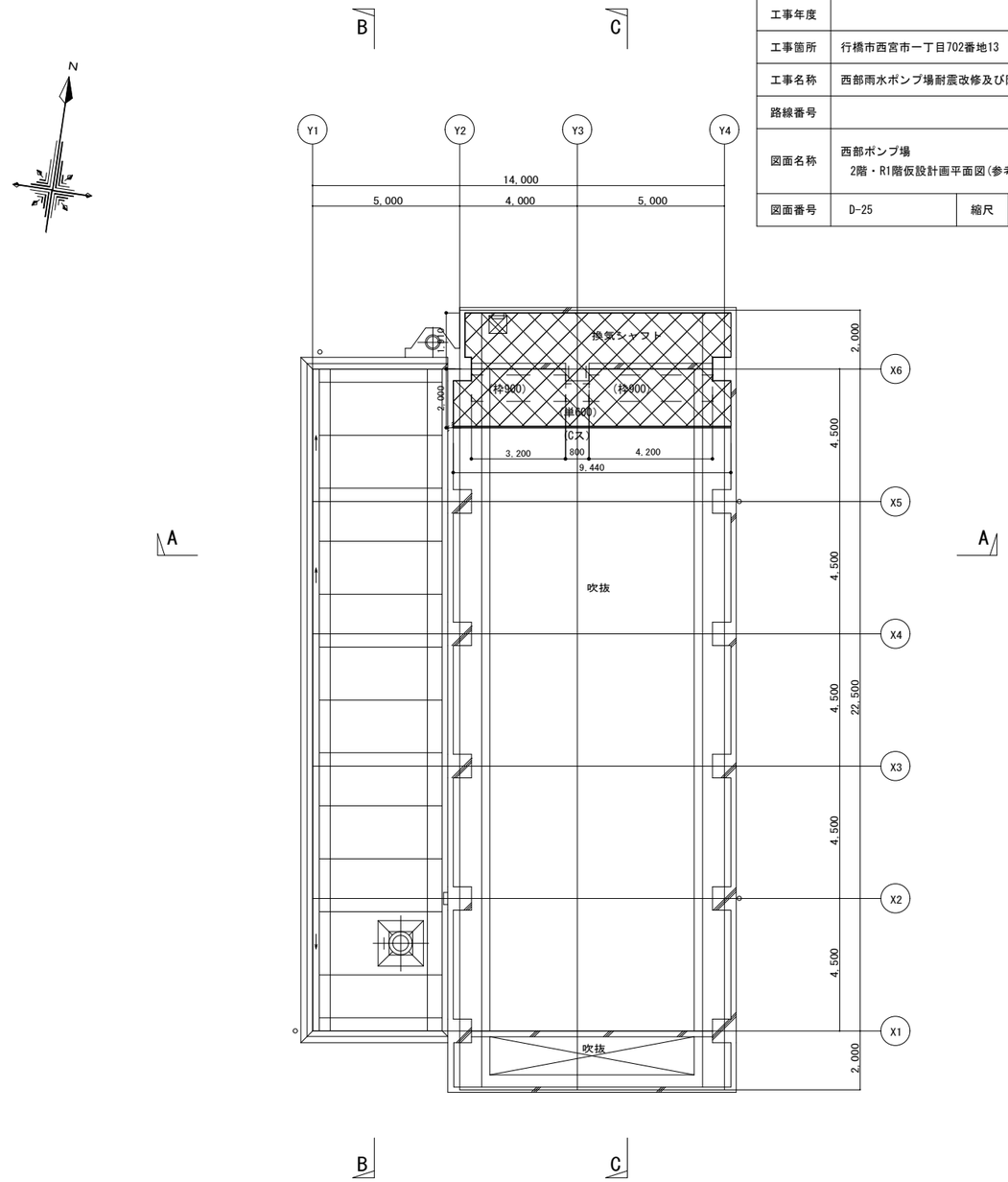
(Aス)	仮設間仕切り(A種) スラブ下まで		工事スペース		RC壁増壁を示す	(枠1200)	枠組足場1200巾	(単1200)	単管足場1200巾
(Bス)	仮設間仕切り(B種) スラブ下まで		資材搬入通路		工事用動線、資材搬入	(枠900)	枠組足場900巾	(単900)	単管足場900巾
(Cス)	仮設間仕切り(C種) スラブ下まで		維持管理通路、資材搬入通路（兼用）		維持管理動線	(枠600)	枠組足場600巾	(単600)	単管足場600巾
(COOm)	仮設間仕切り(C種) ○○mまで								

第2工区

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 2階・R1階仮設計画平面図(参考図)		
図面番号	D-25	縮尺	1/100



２階平面図　1/100



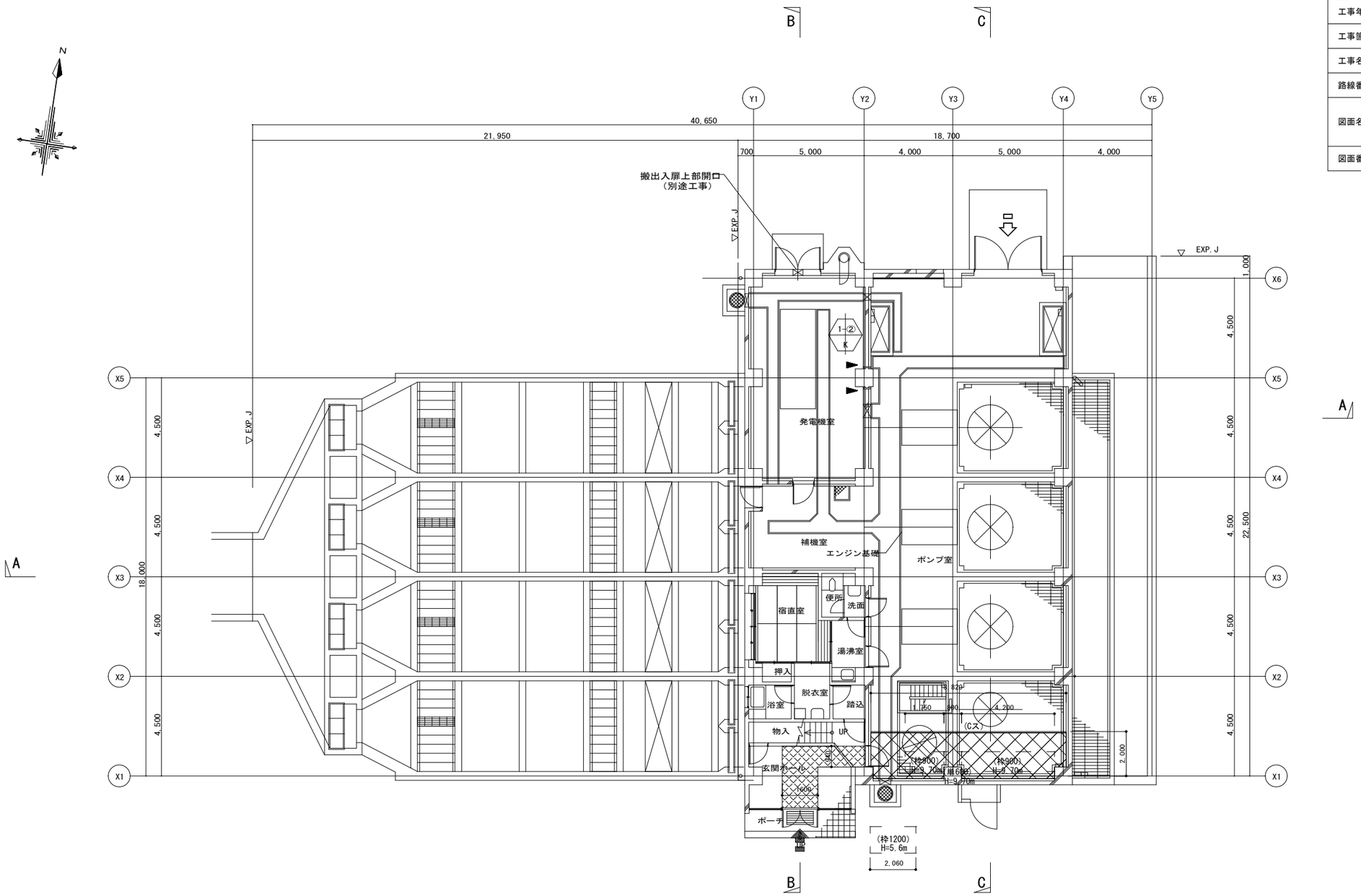
Ｒ１階平面図　1/100

凡例

(Aス)	仮設間仕切り(A種) スラブ下まで		工事スペース		RC壁増壁を示す	(枠1200)	枠組足場1200巾	(単1200)	単管足場1200巾
(Bス)	仮設間仕切り(B種) スラブ下まで		資材搬入通路		工事用動線、資材搬入	(枠900)	枠組足場900巾	(単900)	単管足場900巾
(Cス)	仮設間仕切り(C種) スラブ下まで		維持管理通路、資材搬入通路（兼用）		維持管理動線	(枠600)	枠組足場600巾	(単600)	単管足場600巾
(COOm)	仮設間仕切り(C種) ○○mまで								

第3工区

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 １階仮設計画平面図（参考図）		
図面番号	D-26	縮尺	1/100



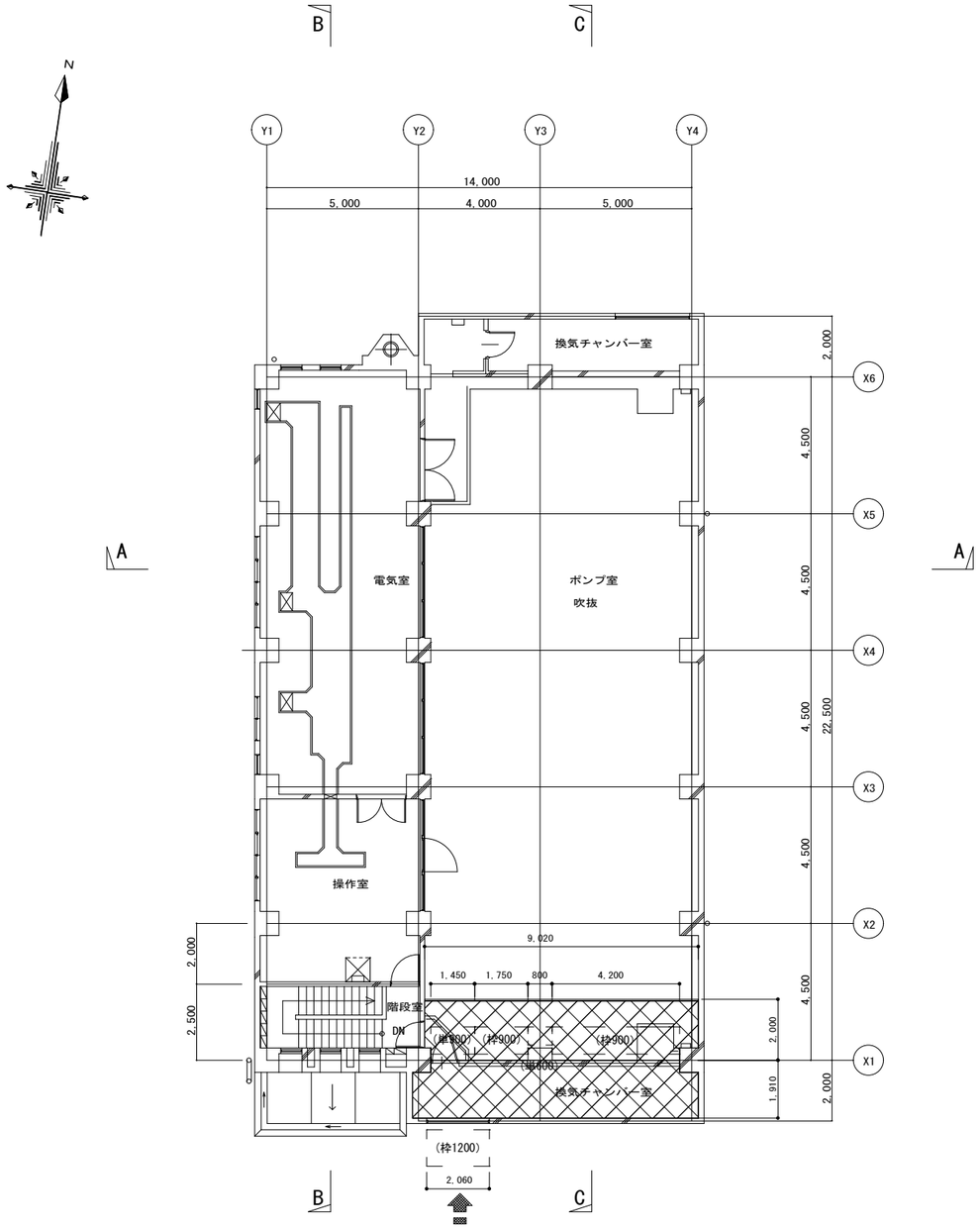
１階平面図　1/100

凡例

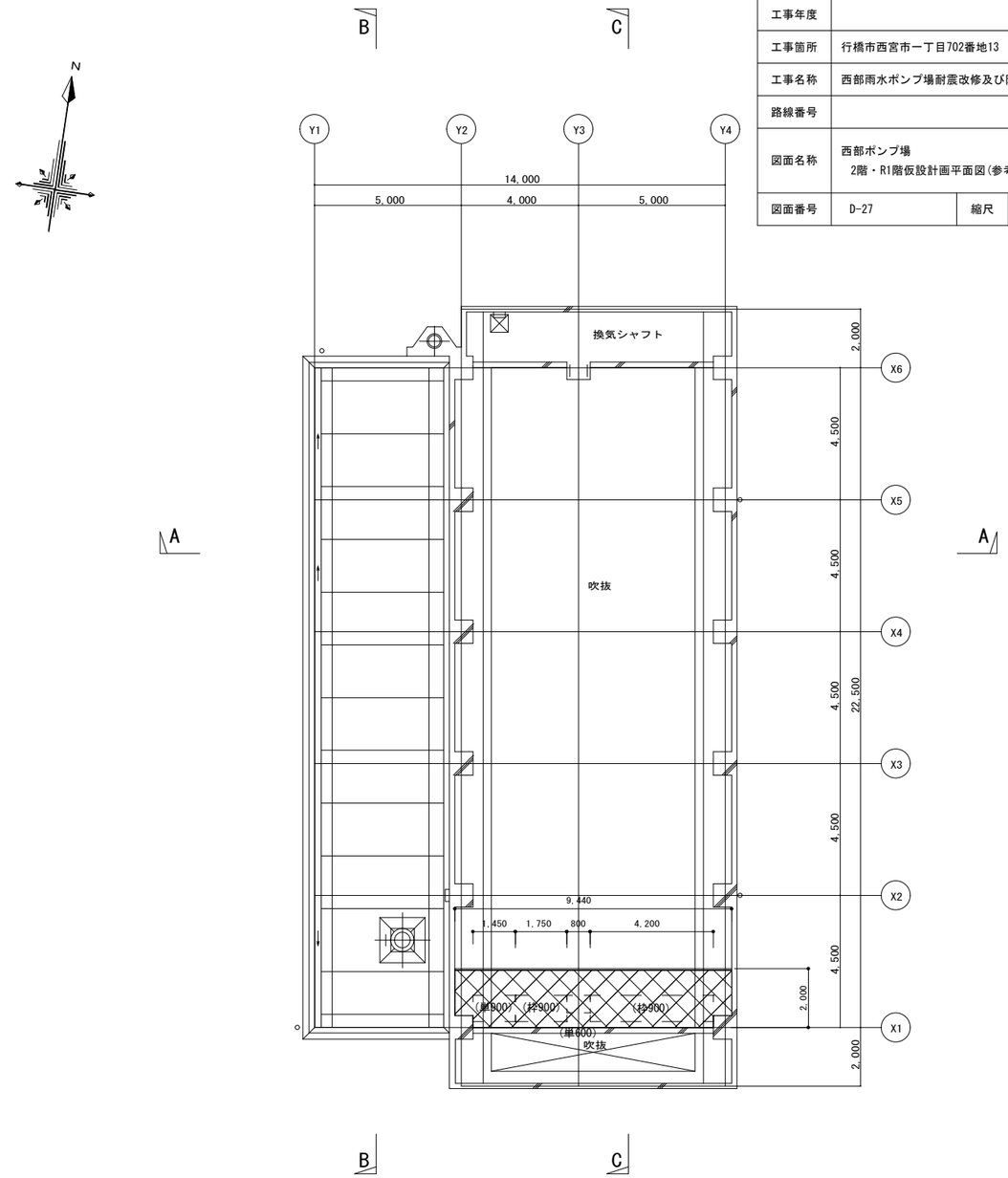
(Aス)	仮設間仕切り(A種) スラブ下まで		工事スペース		RC壁増壁を示す	(枠1200)	枠組足場1200巾	(単1200)	単管足場1200巾
(Bス)	仮設間仕切り(B種) スラブ下まで		資材搬入通路		工事用動線、資材搬入	(枠900)	枠組足場900巾	(単900)	単管足場900巾
(Cス)	仮設間仕切り(C種) スラブ下まで		維持管理通路、資材搬入通路（兼用）		維持管理動線	(枠600)	枠組足場600巾	(単600)	単管足場600巾
(COOm)	仮設間仕切り(C種) ○○mまで								

第3工区

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 2階・R1階仮設計画平面図(参考図)		
図面番号	D-27	縮尺	1/100



２階平面図　1/100



Ｒ１階平面図　1/100

凡例

(Aス)	仮設間仕切り(A種) スラブ下まで		工事スペース		RC壁増壁を示す	(枠1200)	枠組足場1200巾	(単1200)	単管足場1200巾
(Bス)	仮設間仕切り(B種) スラブ下まで		資材搬入通路		工事用動線、資材搬入	(枠900)	枠組足場900巾	(単900)	単管足場900巾
(Cス)	仮設間仕切り(C種) スラブ下まで		維持管理通路、資材搬入通路（兼用）		維持管理動線	(枠600)	枠組足場600巾	(単600)	単管足場600巾
(COOm)	仮設間仕切り(C種) ○○mまで								

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 構造細目共通図（建築構造物）（１）		
図面番号	S-01	縮尺	―

構 造 細 目 共 通 図（建築構造物）

＜ 平成３０年版 ＞

※ 本図面は（一社）全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

１　特記事項

１．１　適用範囲

（１）本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。

（２）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、
これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

１）建築工事特記仕様書		（別紙による。）
２）建築工事一般仕様書		（平成　　年版）
３）公共建築工事標準仕様書（建築工事編）	国土交通省大臣官房官庁営繕部	（平成 28 年版）

（３）項目は、Ⓑ印のついたものを適用する。印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。Ⓑと ※ 印のある場合は、共に適用する。

１．２　鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は１．１表による。

１．１表　鉄筋の種類及び継手

	種　別	径
鉄筋の種類	ＳＤ２９５Ａ	※ Ｄ１６ 以下 ・
	ＳＤ３４５	※ Ｄ１９ 以上 ・
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※Ｄ１９以上、Ｄ２９以下 の柱、梁主筋 ・
	機械式継手	・図面による。

１．３　コンクリートの仕様

コンクリートは１．２表による。

１．２表　コンクリートの仕様

分　類		コンクリート種別	設計基準強　度（N/mm²）	スランプ（cm）	セメントの種類
鉄筋コンクリート	地上	※普通　コンクリート ・	※２４ ・	※ １８ ・	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントＢ
	地下 基礎、基礎梁	※普通　コンクリート ・	※２４ ・	※ １５ ・ ・	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントＢ
無筋コンクリート		※普通　コンクリート ・	※１８ ・	※ １５ ・	・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントＢ

注１：無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

１．４　砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ１．３表による。

１．３表　砕石及び捨てコンクリートの仕様

種　別	厚さ（mm）
砂利または砕石	※ ６０
捨てコンクリート	※ ５０

２　共通事項

２．１　記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、２．１表及び２．２表を標準とする。

２．１表　鉄筋の断面表示

径	Ｄ１０	Ｄ１３	Ｄ１６	Ｄ１９	Ｄ２２	Ｄ２５	Ｄ２９	Ｄ３２
記　号	●	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎

２．２表　一般凡例

記　号 ・ 符　号	内　容	※印の説明及び注意事項
Ｆ※	フーチング断面種別	※　番号
※１Ｃ※２	柱断面種別	※１　階数 ※２　その階の番号
※１Ｇ※２	大梁断面種別	※１　階数、地中大梁はＦとする ※２　その階の番号 Ｘ方向１，２，３－－－－ Ｙ方向Ａ，Ｂ，Ｃ－－－－
ＣＧ※	片持大梁断面種別	※　番号、階別区分はしない
※１Ｂ※２	小梁断面種別	※１　地中小梁のみＦとする。 ※２　階別区分はしない 地中小梁を除く
ＣＢ※	片持小梁断面種別	※　番号、階別区分はしない
※１Ｗ※２	壁配筋種別	※１　Ｅ：耐震壁，Ｋ：階段壁 Ｄ：土圧、水圧を受ける壁 ※２　階別区分はしない 壁厚（cm）
※１Ｓ※２※３	床版配筋種別	※１　片持床版のみＣとする ※２　床版厚（cm） ※３　配筋種別（英大文字） 階別区分はしない
※１Ｋ※２	階段の配筋種別	※１　Ａ：片持床版形 Ｂ：二辺固定床版形 ※２　配筋種別（数字） 階別区分はしない
ＣＢ※	コンクリートブロック壁	※　壁厚（cm）
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準ＦＬよりの＋、－に 応じた凡例により表示
（※）	床用積載荷重	積載荷重の値　（ｋＮ／㎡）
ＳＴＰ	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
ＨＯＯＰ	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
Ｓ.ＨＯＯＰ	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

２．２　一般注意事項

（１）設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

３　鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、３．１表及び３．２表を標準とする。

（１）Ｄは、折曲げ内法直径を示す。

（２）ｄは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

３．１表　鉄筋の折曲げ形状及び寸法（末端部）

曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ ＳＤ３４５ Ｄ１６以下	Ｄ１９～Ｄ３８	使用箇所
１８０°	4ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 Ｄ１６以上の鉄筋
１３５°	6ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	Ｄ１３以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
９０°	8ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	Ｔ形及びＬ形の梁の あばら筋
１３５° ９０°	4ｄ以上 4ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	９０°　１３５° 幅止め筋

（注）１．片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で９０°フック又は１３５°フックを用いる場合は、余長を４ｄとする。
２．９０°未満の折曲げの内法直径は図示による。

３．２表　鉄筋の折曲げ形状及び寸法（中間部）

曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ ＳＤ３４５ Ｄ１６以下	Ｄ１９～Ｄ２５	Ｄ２９～Ｄ３８	使用箇所
９０°以下		３ｄ以上	４ｄ以上	－	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
		４ｄ以上	６ｄ以上	８ｄ以上	その他の鉄筋

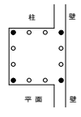
４　異形鉄筋の末端部

４．１　フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、４．１表によりフックを設ける。

４．１表　フックを設ける位置

部　位		継手方式 重ね継手	圧接継手	備　考
柱	四隅の主筋	――	１）最上階の柱頭部	４．１図の ●印 ８．１図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	――	１）下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	４．１図の ●印 ８．２図参照
	帯筋（HOOP）	１）末端部 ２）継手部	１）末端部	９．１図参照
梁	あばら筋（STP）	１）末端部 ２）継手部	１）末端部	１１．１図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	１）末端部 ２）継手部	１）末端部	２０．１図参照
煙突の鉄筋		１）末端部 ２）継手部	１）末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋		――	――	３．１表参照



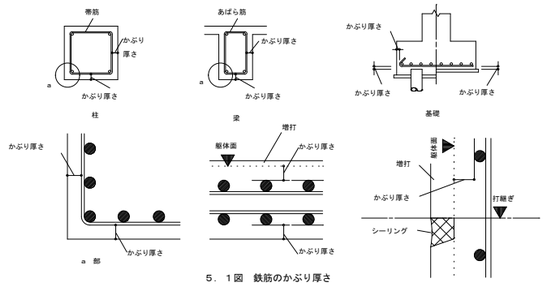
４．１図　異形鉄筋の末端部

５　鉄筋のかぶり及び間隔

５．１　かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外面から躯体面までの距離（５．１図）をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差１０㎜を加えた厚さ以内に納めるものとする。



５．１図　鉄筋のかぶり厚さ

５．２　最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、５．１表による。

（１）床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。

（２）柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。

（３）溶接金網にも適用する。

５．１表　鉄筋の最小かぶり厚さ（㎜）

構造部分の種別		塩害区分 ※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を必要とする場合
一　般	床、耐力壁以外の壁	３０	４０
	柱、梁、耐力壁	４０	５０
	底版	４０	５０
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	４０	５０
	底版、基礎	６０	７０
煙突等高熱を受ける部分		６０	７０

１：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
２：杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭天端からとし、「２１ 杭基礎の補強」を参照。
３：仕上なしの場合を標準とする。

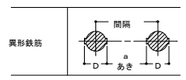
５．３　鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは特記による。

（１）粗骨材の最大寸法の１．２５倍

（２）最小のあき２５㎜

（３）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の１．５倍



（注）Ｄ：鉄筋の最外径
ｄ：鉄筋直径（呼び名）

５．２図　鉄筋相互のあき

５．２表　鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径　㎜ 鉄筋径 d	最外径 D	鉄筋相互のあき：a （１） 粗骨材径×1.25	（２） 最小あき	（３） 鉄筋径×1.5	最小鉄筋芯間隔 a＋D
Ｄ１０	１１	３１㎜ ［粗骨材最大径２５㎜の場合］	２５㎜	１５㎜	４２㎜
Ｄ１３	１４			２０㎜	４５㎜
Ｄ１６	１８			２４㎜	４９㎜
Ｄ１９	２１			２９㎜	５２㎜
Ｄ２２	２５			３３㎜	５８㎜
Ｄ２５	２８			３８㎜	６６㎜
Ｄ２９	３３			４４㎜	７７㎜

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 構造細目共通図(建築構造物)(２)		
図面番号	S-02	縮尺	—

６　鉄筋の継手及び定着

６．１　継手及び定着

６．１．１　鉄筋の重ね継手

（１）鉄筋の重ね継手の長さは、６．１表による。

（２）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

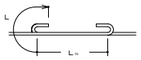
（３）主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは４０ｄとする。ただし、ＳＤ３９０、ＳＤ４９０を使用する場合は特記による。

６．１表　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_1（フックなし）	L_{1h}（フックあり）
ＳＤ２９５Ａ	２４，２７	３５ｄ	２５ｄ
	３０	３５ｄ	２５ｄ
ＳＤ３４５	２４，２７	４０ｄ	３０ｄ
	３０	３５ｄ	２５ｄ

（注）１．L_1、L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ

２．フックありの場合のL_{1h}は、６．１図に示すようにフック部分Ｌを含まない。



６．１図

６．１．２　継手の特記事項

（１）　継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

（２）　異種径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

６．１．３　鉄筋の定着

（１）　鉄筋の定着の長さは、６．２表による。

６．２表　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	フックなし L_1	フックなし L_2	フックなし L_3 小梁	フックなし L_3 スラブ	フックあり L_{1h}	フックあり L_{2h}	フックあり L_{3h} 小梁	フックあり L_{3h} スラブ
ＳＤ２９５Ａ	２４，２７	３５ｄ	３０ｄ	２０ｄ	１０ｄかつ１５０㎜以上	２５ｄ	２０ｄ	１０ｄ	—
	３０	３５ｄ	３０ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
ＳＤ３４５	２４，２７	４０ｄ	３５ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	３０	３５ｄ	３０ｄ			２５ｄ	２０ｄ		

（注）１．L_1、L_{1h}：２．以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ

２．L_2、L_{2h}：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

３．L_3：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く）

なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、２０ｄ及び１０ｄを２５ｄ以上とする。

４．L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ

５．フックあり定着の場合は、６．２図（イ）に示すようにフック部分ｂを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

６．１．４　定着の方法

定着の方法は６．２図による。

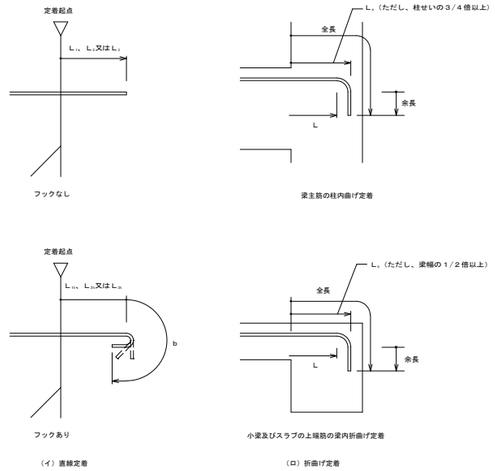
なお、（ロ）折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さＬが、６．２表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を６．２表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを６．３表に示す長さをのみ込ませる。

（注）１．L_1、L_2は、６．３表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。

・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの３/４倍以上

・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の１/２倍以上

・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の１/２倍以上



６．２図　定着の方法

６．３表　鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_1	L_3
ＳＤ２９５Ａ	２４，２７	１５ｄ	１５ｄ
	３０	１５ｄ	１５ｄ
ＳＤ３４５	２４，２７	２０ｄ	１５ｄ
	３０	１５ｄ	１５ｄ

（注）１．L_1：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ちスラブを含む。）

２．L_3：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

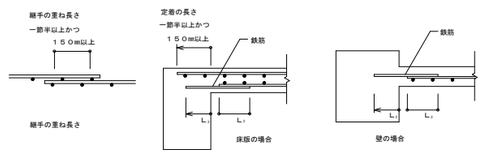
６．２　隣り合う継手の位置及び定着

（１）隣り合う継ぎ手の位置は、６．４表により、ａ寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合を除く。

６．４表　隣り合う継手の位置

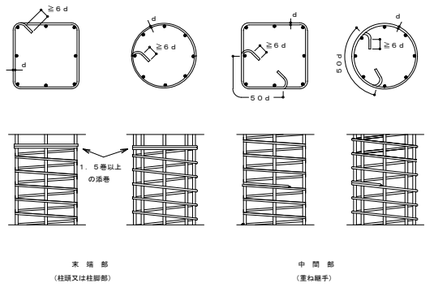
条件		重ねる場合	離す場合
重ね継手	フック有りの場合	L_{1h} a ≧ L_{1h} a＝０．５L_{1h}	a≧０．５L_{1h} L_{1h} a L_{1h}
重ね継手	フックなしの場合	L_1 L_1 a ≧ L_1 a＝０．５L_1	a≧０．５L_1 L_1 a L_1
圧接継手			a≧４００㎜ a

（２）溶接金網の継手及び定着



６．３図　溶接金網の継手及び定着要領

（３）スパイラル筋の継手及び定着



６．４図　スパイラル筋の継手及び定着要領

７　柱筋の継手位置

７．１　継手及び圧接中心位置

（１）柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から５０㎝以上、１５０㎝以下かつ３／４ｈｏ（ｈｏは柱の内法高さ）以下とする。

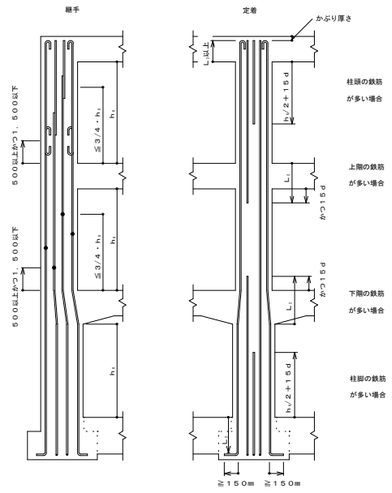
８　柱筋の継手及び定着

８．１　一般事項

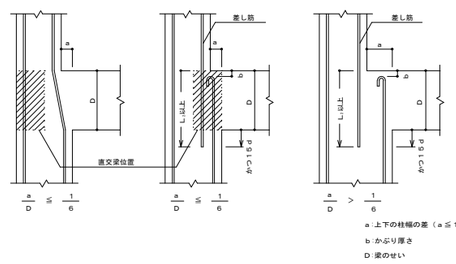
（１）継手長さはL_1とし、定着及び余長は、８．１図による。

（２）柱頭定着長さL_2が確保出来ない場合は、図面による。

（３）上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、８．２図による。



８．１図　柱主筋の継手、定着及び余長



ａ：上下の柱幅の差（ａ≦１５０）

ｂ：かぶり厚さ

Ｄ：梁のせい

８．２図　上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

９　帯筋

９．１　帯筋の形状

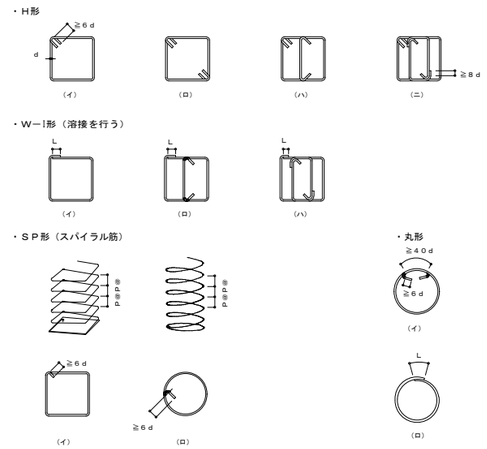
（１）帯筋の形状は、９．１図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。

（ａ）Ｈ形を標準とする。

（ｂ）Ｈ形の１３５°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ｉ形とする。

（ｃ）溶接する場合の溶接長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とし、組立前に行う。

（ｄ）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は、１．５巻以上の添巻きを行う。



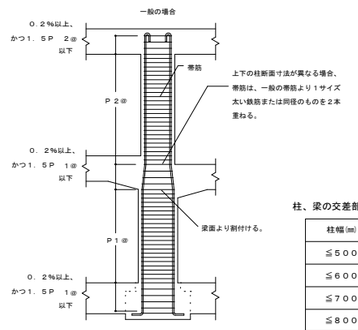
９．１図　帯筋組立の形

９．２　帯筋の割付け

（１）フック及び継手の位置は交互とする。

（２）帯筋の割付けは、９．２図による。ただし、図面にある場合はそれによる。

（３）柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、０．２%以上を確保し、補強筋間隔 ≦ １．５Ｐとする。



９．２図　帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例（０．２%確保）

柱幅(㎜)	パネルゾーン
≦５００	Ｄ１０ @１２５
≦６００	Ｄ１０ @１００
≦７００	Ｄ１０ @１００
≦８００	Ｄ１３ @１５０
≦９００	Ｄ１３ @１２５
≦１０００	Ｄ１３ @１２５
≦１１００	Ｄ１３ @１００
≦１２００	Ｄ１３ @１００

※１．５Ｐ$_1$、１．５Ｐ$_2$のピッチは１５０㎜以下とする。

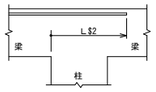
行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 構造細目共通図(建築構造物)(３)		
図面番号	S-03	縮尺	—

１０　大梁筋の継手及び定着

１０．１　大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

大梁主筋の継手及び定着の一般事項

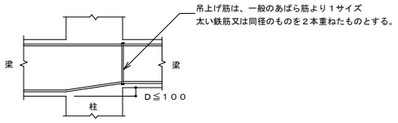
ａ．梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、ｂ．により柱内に定着することができる。
ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、１０．１図による。



１０．１図　梁主筋の梁内定着

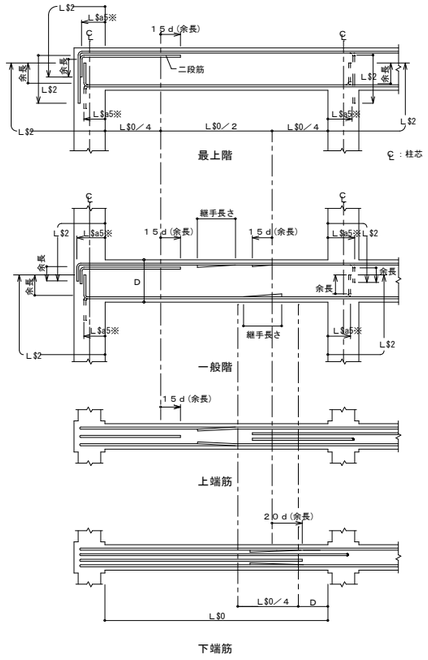
ｂ．梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、６．１．４による。
上端筋：曲げ下ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

ｃ．段違い梁は１０．２図による。



１０．２図　段違い梁

１０．２　ハンチのない場合

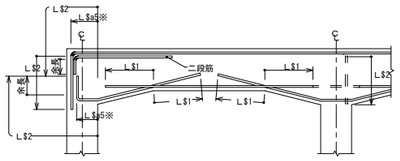


（注）１．継手中心位置は次による。
上端筋：中央Ｌ$0／２以内
下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、Ｌ$0／４を加えた範囲以内
２．４．異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
３．　　印は、継手及び余長を示す。
４．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．３図　大梁の重ね継手、定着及び余長

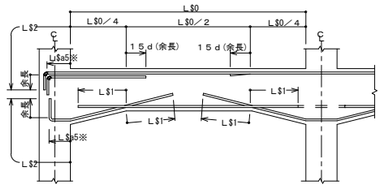
１０．３　ハンチのある場合

（１）最上階の場合



１０．４図　ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）

（２）一般階の場合

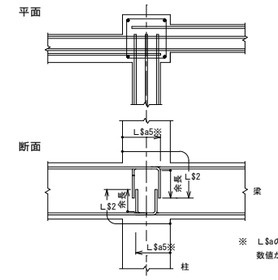


１０．５図　ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

（注）１．４．異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
２．　　印は、継手及び余長を示す。
３．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝　＝　＝のように引き通すことができる。
４．破線は、梁内定着の場合を示す。
※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．４　水平段差のある場合

水平段差のある場合

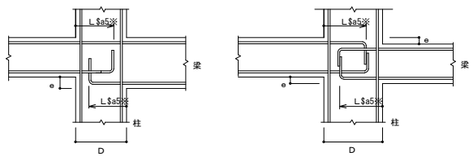


※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．６図　大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

１０．５　鉛直段差（ｅ）のある場合

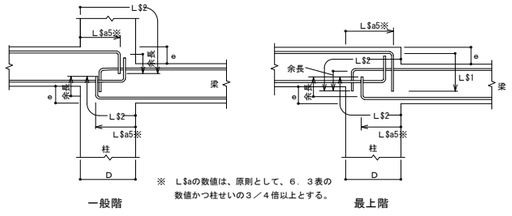
（１）ｅ／Ｄ≦１／６の場合



定着の長さは、１０．３図に準ずる
※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．７図　鉛直段差梁（その１）

（２）ｅ／Ｄ＞１／６の場合



※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

一般階　　最上階

１０．８図　鉛直段差梁（その２）

１１　梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

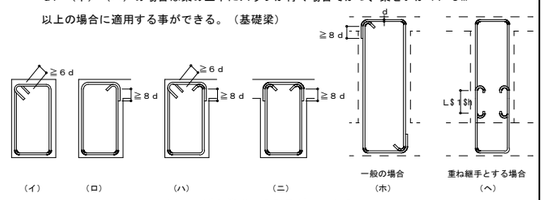
１１．１　一般事項

（１）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０mm程度とする。
（２）壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、Ｌ$2 とする。
（３）土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
（４）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、Ｄ１０－１０００mmピッチ程度とする。

１１．２　あばら筋組立の形及びフックの位置

（１）形は、１１．１図（イ）を標準とする。
ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
ａ．床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）
ｂ．床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）

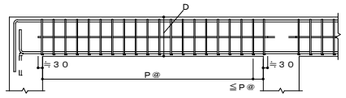
（２）フックの位置
ａ．（イ）の場合は交互とする。
ｂ．（ロ）の場合　床版が片側に付く場合は床版の付く側。床板が両側に付く場合は交互。
ｃ．（ハ）の場合は床版の付く側を９０°折曲げ、８ｄ確保する。
ｄ．（ホ）（へ）の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが１．５ｍ以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）



１１．１図　あばら筋組立の形及びフックの位置

１１．３　あばら筋の割付け

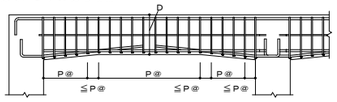
（１）間隔が一様でハンチのない場合



（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
２．図中のＰ@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

１１．２図　あばら筋の割付け（その１）

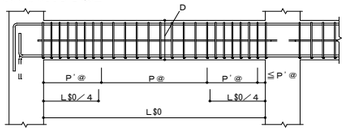
（２）間隔が一様でハンチのある場合



（注）１．あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
２．図中のＰ@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

１１．３図　あばら筋の割付け（その２）

（３）梁の端部で間隔の異なる場合



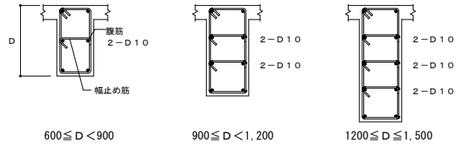
（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
２．図中のＰ@、Ｐ'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

１１．４図　あばら筋の割付け（その３）

１１．４　腹筋及び幅止め筋

（１）一般の梁

ａ）　腹筋及び幅止め筋



600≦Ｄ＜900　　900≦Ｄ＜1,200　　1200≦Ｄ≦1,500

１１．５図　腹筋及び幅止め筋

（２）特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

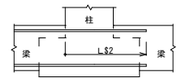
１２　基礎梁及び底版の継手及び定着

１２．１　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

（１）一般事項

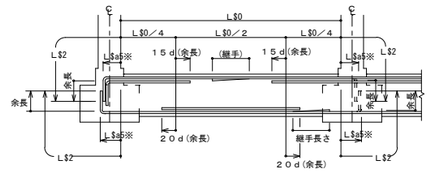
（ａ）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、１２．１図による。

（ｂ）梁筋を柱内に定着する場合は１０．１（１）ｂによる。

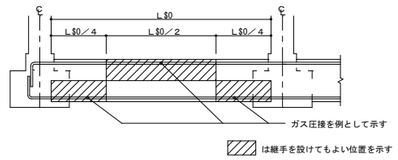


１２．１図　梁筋の基礎梁内への定着

（２）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長

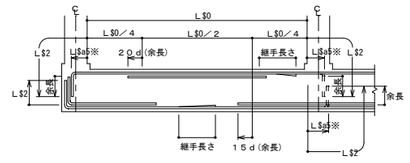


（注）１．図示のない事項は、１０．１による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

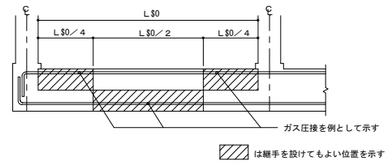


１２．２図　主筋の継手、定着及び余長（その１）

（３）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



（注）１．図示のない事項は、１０．１による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌ$aの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

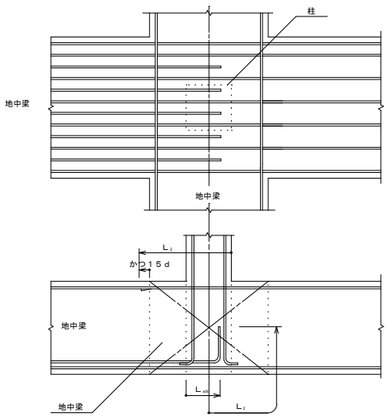


１２．３図　主筋の継手、定着及び余長（その２）

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 構造細目共通図(建築構造物)(４)		
図面番号	S-04	縮尺	—

（４）柱幅＜梁幅の場合

（ａ）交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



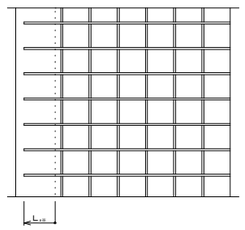
※　L_1の数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１２．４図　主筋の継手、定着及び余長（その３）

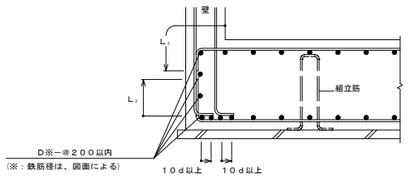
１２．４　梁形を設けない場合の基礎底版（オイルタンク等）

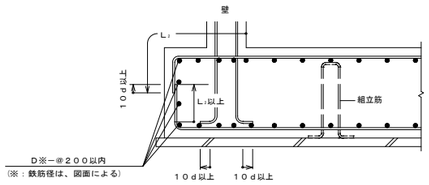
（１）定着の取り方は、壁の面からとする。

（２）途中で配筋が変わる場合の定着は、１２．２図のように基礎底版筋を梁筋と読みかえる。



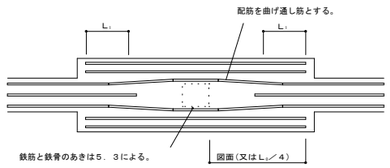
※　L_1の数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。





１２．５図　主筋の継手、定着及び余長（その４）

（３）鉄骨造のＢＯＸ柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



１２．６図　主筋の継手、定着及び余長（その５）

１３　小梁及び片持梁の配筋要領

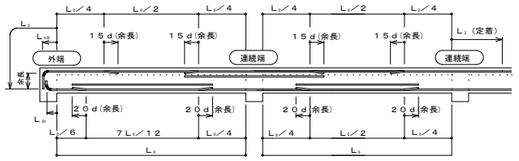
１３．１　一般事項

（１）図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。

（２）　　印は、継手及び余長を示す。

１３．２　小　梁

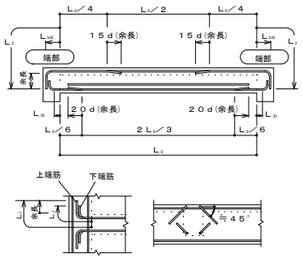
（１）連続小梁の場合



※　L_1の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１３．１図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

（２）単独小梁の場合



１３．２図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

（注）１．　　印は、継手及び余長を示す。

２．梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

３．図示のない事項は、１０．１及び１２．１に準ずる。

※　L_1の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

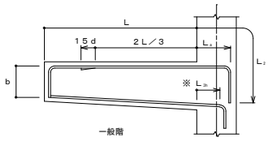
１３．３　片持梁筋の定着

（１）先端に小梁のない場合

ａ．先端の折曲げの長さｂは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

ｂ．梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、

全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、２本以上を柱に定着する。



※　L_2をフックなしで定着
させる場合は２５ｄとする。

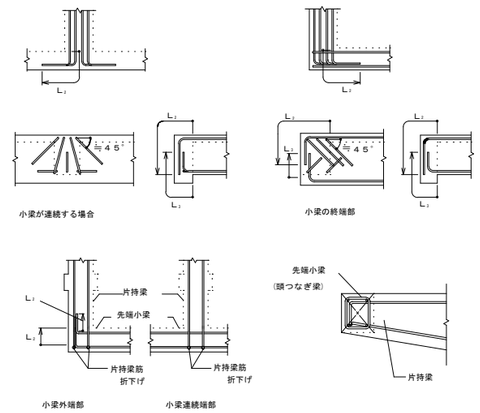
１３．３図　片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁のない場合）

（２）先端に小梁がある場合

ａ．上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

ｂ．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

ｃ．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



１３．４図　片持梁主筋の定着

１４　壁の配筋要領

１４．１　一般事項

（１）壁配筋の継手の長さはL_1、及び定着の長さは、L_2とする。

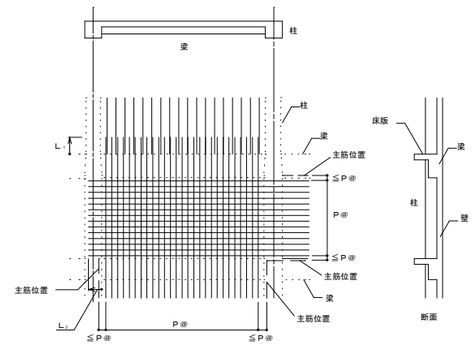
（２）土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをL_1、

定着長さはL_2とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは４０ｄとし、ＳＤ３９０、

ＳＤ４９０を使用する場合は特記による。

（３）幅止め筋は、縦、横ともＤ１０－@１０００を標準とする。

（４）一般部壁筋は、１４．１図による。



１４．１図　壁の配筋

１４．２　耐震壁の開口

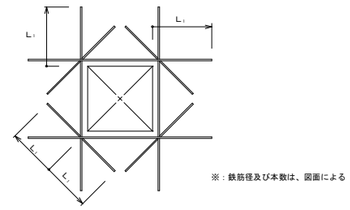
（１）耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

（２）やむを得ず開口をあける場合は、Ｈ１９国土交通省告示５９３号の規定を満足することを

構造計算によって確認すること。

１４．３　壁開口部の補強

（１）壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、１４．３図を標準とする。



１４．３図　壁開口部の補強の定着長さ

（２）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、

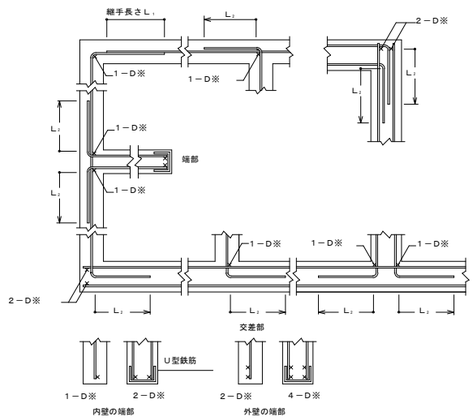
開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

１４．４　壁の交差部及び端部

壁と壁の交差部は、１４．４図による。

ａ．交差部補強筋Ｄ※はＤ１３以上、かつ壁主筋と同径とする。

ｂ．壁の端部にＵ型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。



１４．４図　壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」（建築学会）に基づき図面による。

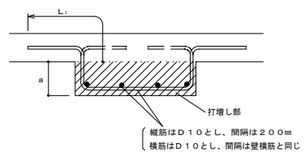
１４．５　壁の打増し要領

コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の

打増し補強筋は、１４．５図による。

打増し厚さのａが５０㎜以上、２００㎜以下に適用する。

２００㎜を越える場合は、特記による。



１４．５図　壁の打増し補強配筋

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 構造細目共通図(建築構造物)(5)		
図面番号	S-05	縮尺	—

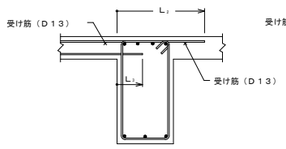
１５　床の配筋要領

１５．１　一般事項

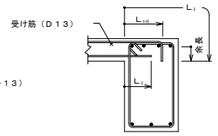
（１）鉄筋の継手長さは、L_1とする。

（２）定着長さ及び受け筋は、１５．１図による。ただし、引き通すことができない場合は、
　　１５．２図、１５．３図により梁内に定着する。

（３）基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強
　　は図面による。図面がなければ１６．５図による。

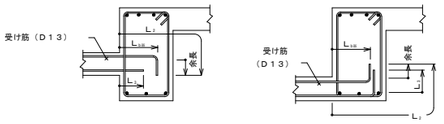


１５．１図
スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）



※　L_1の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１５．２図
スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

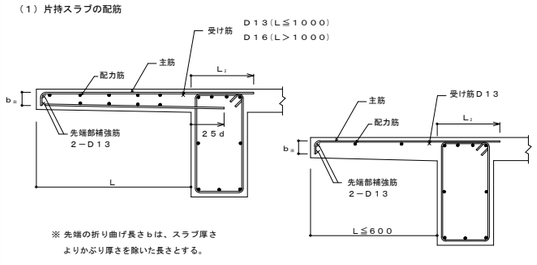


※　L_1の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１５．３図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その３）

１５．２　片持スラブ

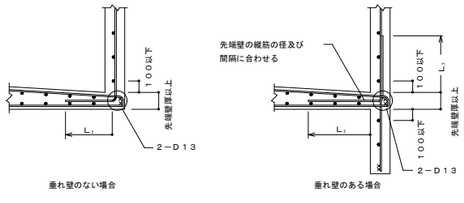
（１）片持スラブの配筋



※ 先端の折り曲げ長さｂは、スラブ厚さ
よりかぶり厚さを除いた長さとする。

１５．４図　片持スラブの配筋

（２）先端に小梁がなく壁が取り付く場合



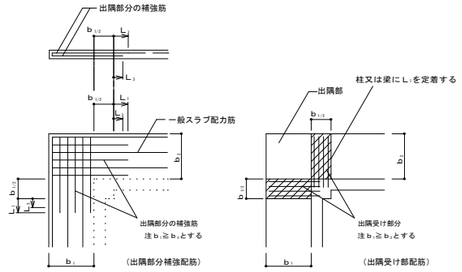
垂れ壁のない場合　　垂れ壁のある場合

１５．５図　先端に壁が付く場合の配筋

１５．３　出隅部の配筋方法

（１）補強の配筋は図面による。配筋方法は、１５．６図による。
　　特記にない場合は、Ｄ１０@１００ダブルとする。

（２）出隅受け部分（図のハッチ部分）の配筋は、図面（幅は$b_{1/2}$とする）による。

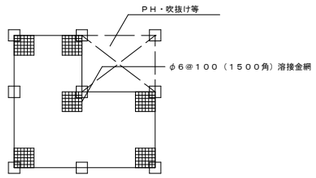


１５．６図　片持スラブ出隅部の補強配筋

１５．４　地上部最上階の屋根床版

（１）出隅及び入隅部分には、１５．７図により、補強筋（溶接金網）を上端筋の下側に配筋する。

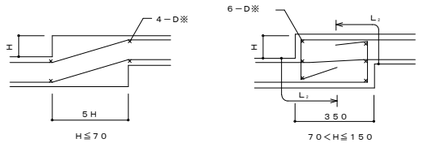
（２）陸屋根、勾配屋根共通とする。



１５．７図　出隅及び入隅部分の補強配筋

１５．５　段差床版の補強

同一床版に段差がある場合、１５．８図の補強を行う。ただし、Ｈ＞１５０の場合は、
小梁を設ける事を原則とする。

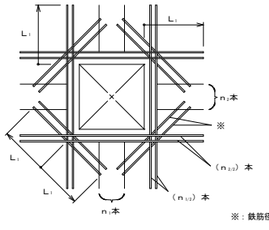


Ｄ※：鉄筋径は、図面による。

１５．８図　段差のある床版の補強配筋

１５．６　床版開口部の補強

（１）開口の最大径≦７００の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、
　　隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋２本を上下筋の内側に配筋する。（１５．９図）
　　開口の最大径＞７００の場合は図面による。



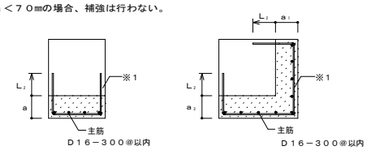
１５．９図　床版開口部の補強配筋

（２）床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を
　　避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

１６　柱及び梁の増し打ち要領

１６．１　柱

（１）増し打ちコンクリートの補強は、１６．１図による。
　　ただし、ａ＜７０㎜の場合、補強は行わない。



※１．帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。

１６．１図　柱の増し打ち補強配筋

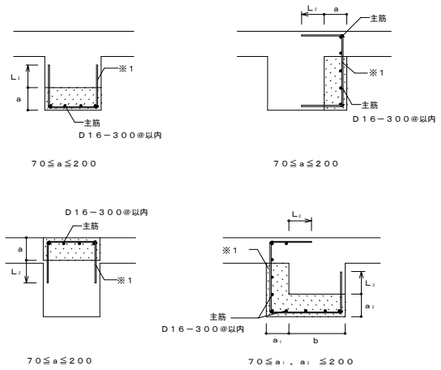
（２）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。

（３）増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_2以上とする。

（４）増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

１６．２　梁

（１）増し打ちコンクリートの補強は、１６．２図による。ただし、
　　ａ＜７０㎜の場合、補強は行わない。



※１．あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。

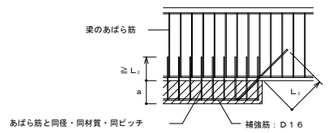
１６．２図　梁の増し打ち補強配筋

（２）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。

（３）増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_2以上とする。

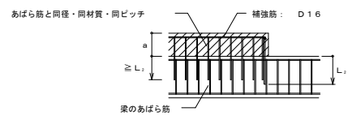
（４）増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。

（５）梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



１６．３図　梁の上下の増し打ち配筋補強（途中で終わる場合）

（６）梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合



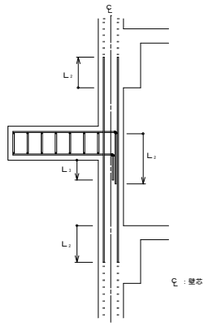
１６．４図　梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

１８　階段の配筋要領

１８．１　階段の配筋要領

（１）壁配筋は、図面による。

（２）階段主筋は、壁の中心線を越えてから緩に曲げ下ろす。



１８．１図　片持スラブ形階段配筋の定着

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 構造細目共通図(建築構造物)(6)		
図面番号	S-06	縮尺	—

１９　勾配屋根の取り合い

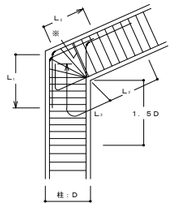
１９．１　斜め柱・斜め梁の取り合い

（１）※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。

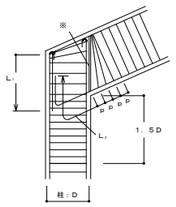
（２）１．５Ｄの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@１００以下とする。

（３）柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔ｐ以下とする。

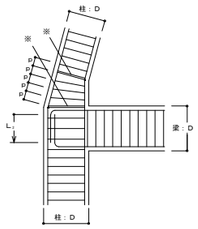
ａ）柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一



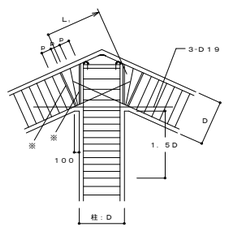
ｂ）柱幅と斜材幅が異なる



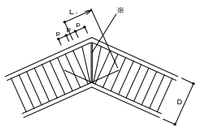
ｃ）柱脚で斜材となる



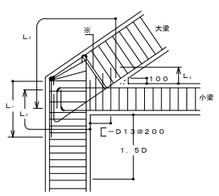
ｄ）柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



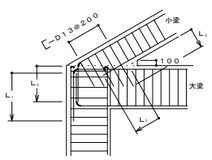
ｅ）梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



ｆ）斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はａ），ｂ）に倣う。



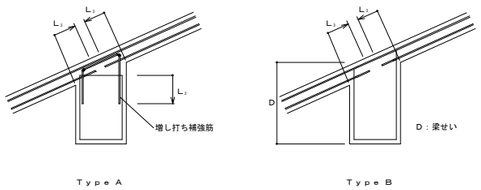
ｇ）大梁に斜め小梁が接する場合



１９．１図　斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

１９．２　梁と床版の取り合い

増し打ち補強要領は、１６．２による。



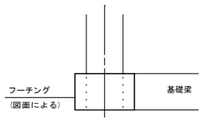
１９．２図　梁と床版の取り合い配筋

１９．３　円柱の取り合い

円柱と梁の取り合い

１）柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合

２）柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合



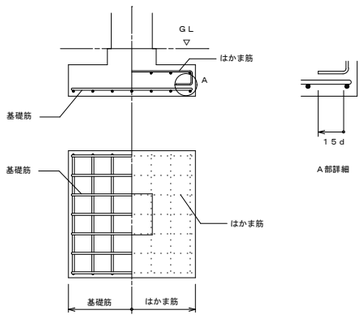
３）柱脚部の円柱と基礎との取合い

１９．３図　円柱の取り合い配筋

２０　基礎及び基礎梁の配筋

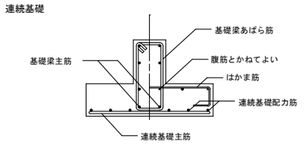
２０．１　直接基礎の配筋

（１）独立基礎



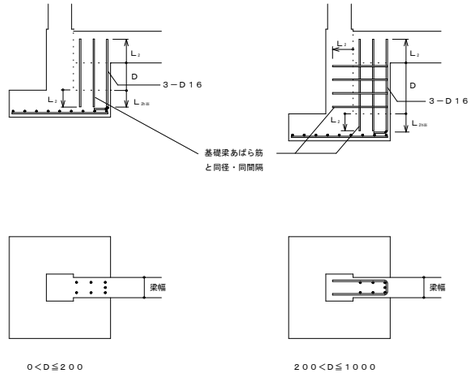
２０．１図　独立基礎の配筋

（２）連続基礎



２０．２図　連続基礎の配筋

２０．２　基礎接合部の補強配筋



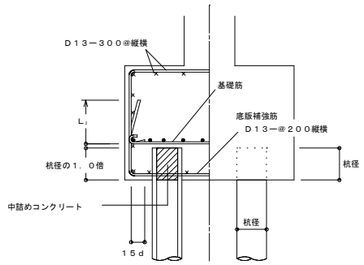
※L_{2a0}を確保できない場合は、標仕（５．３．４（ｅ）（２））によることができる。

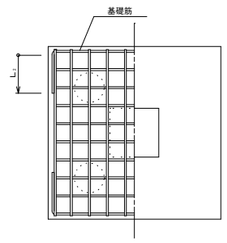
２１　杭基礎の補強

２１．１　杭基礎の配筋

（１）中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。

（２）既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



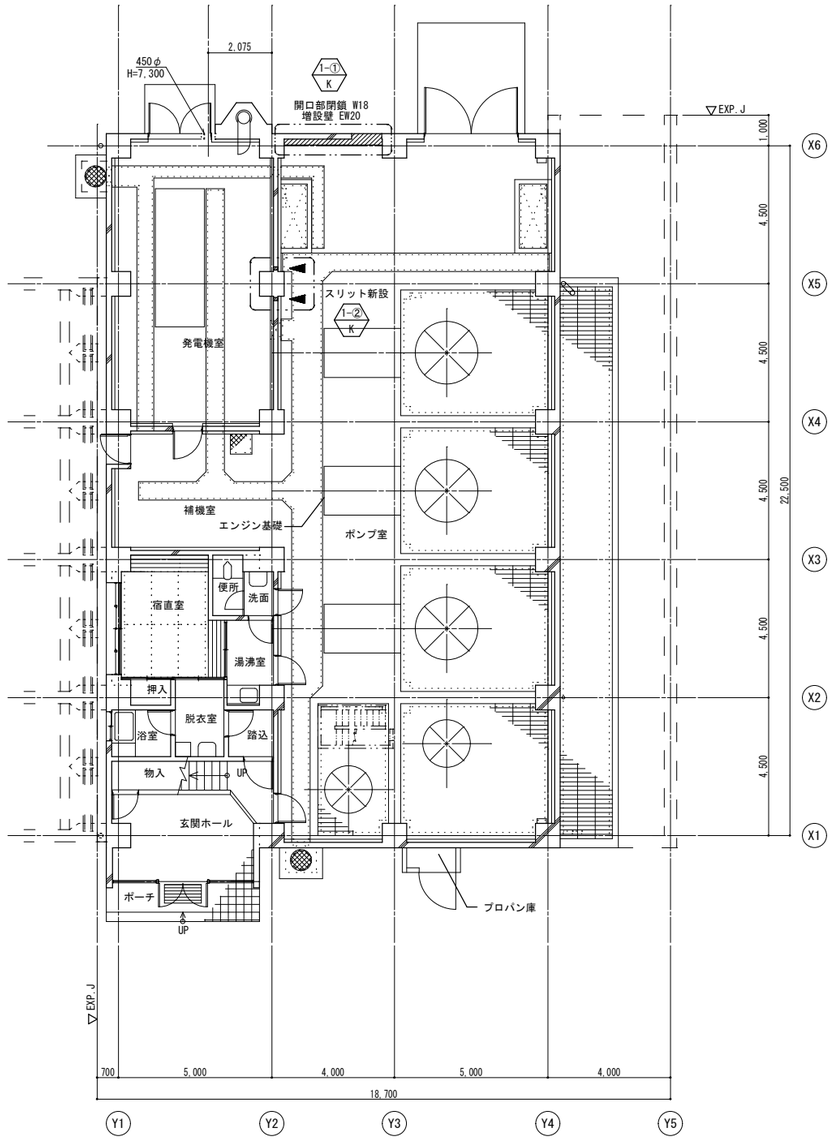


２１．１図　杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

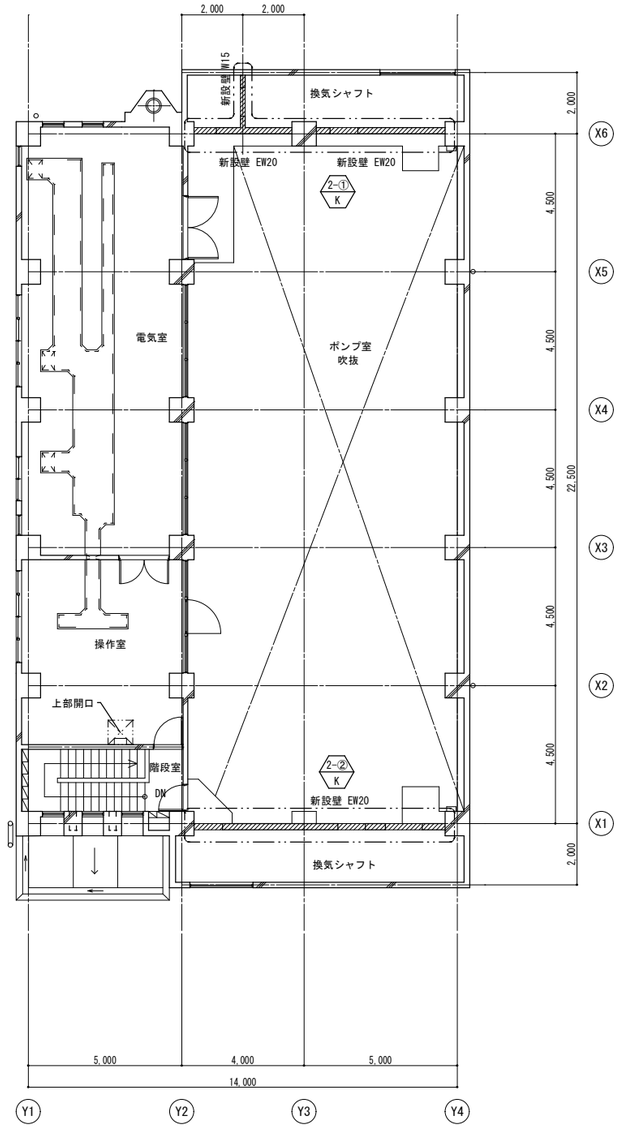
２１．２　基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は、２０．２による。

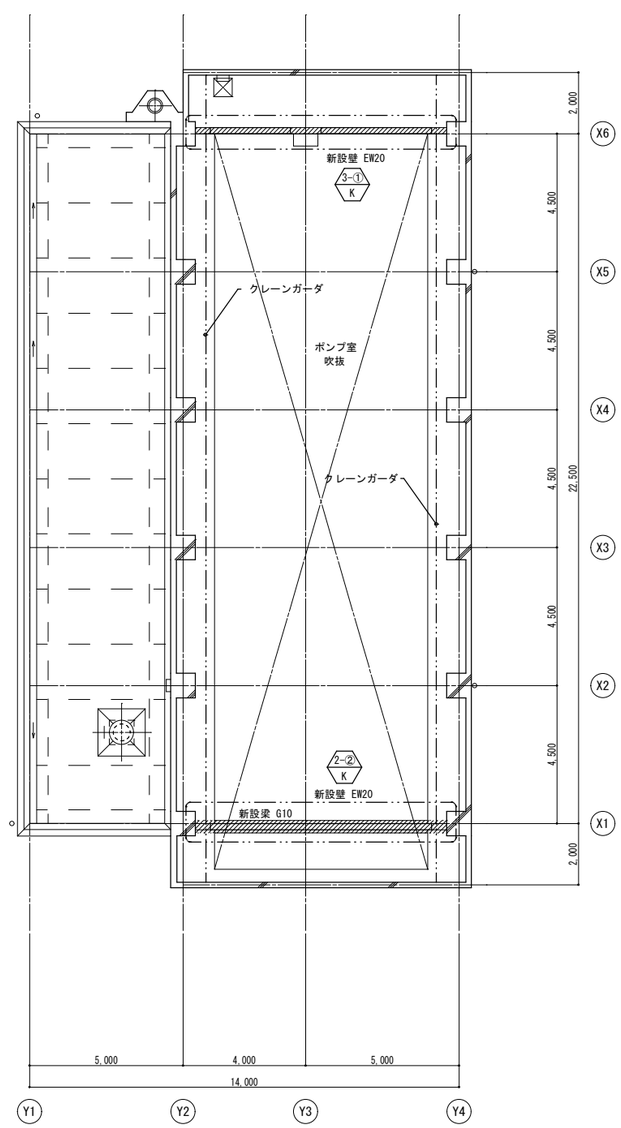
行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 １～Ｒ１階平面図（改修後）		
図面番号	S-07	縮尺	1/100



１階平面図（改修後）　1/100

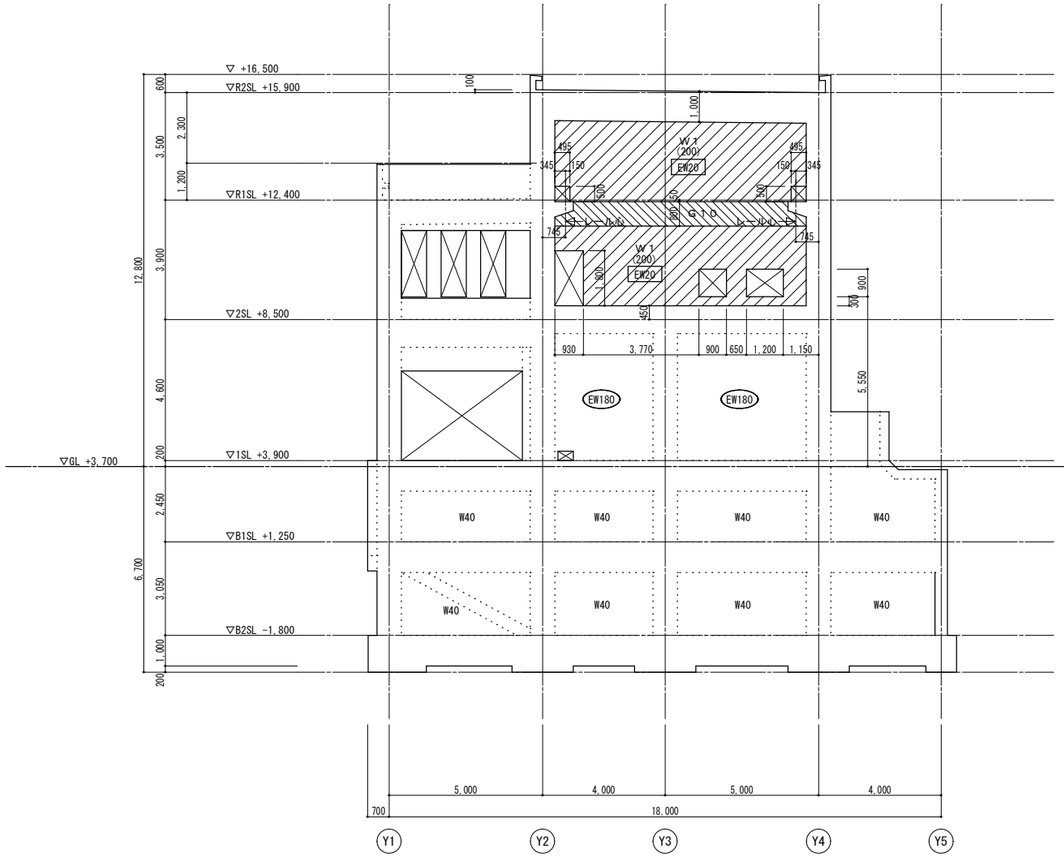


２階平面図（改修後）　1/100

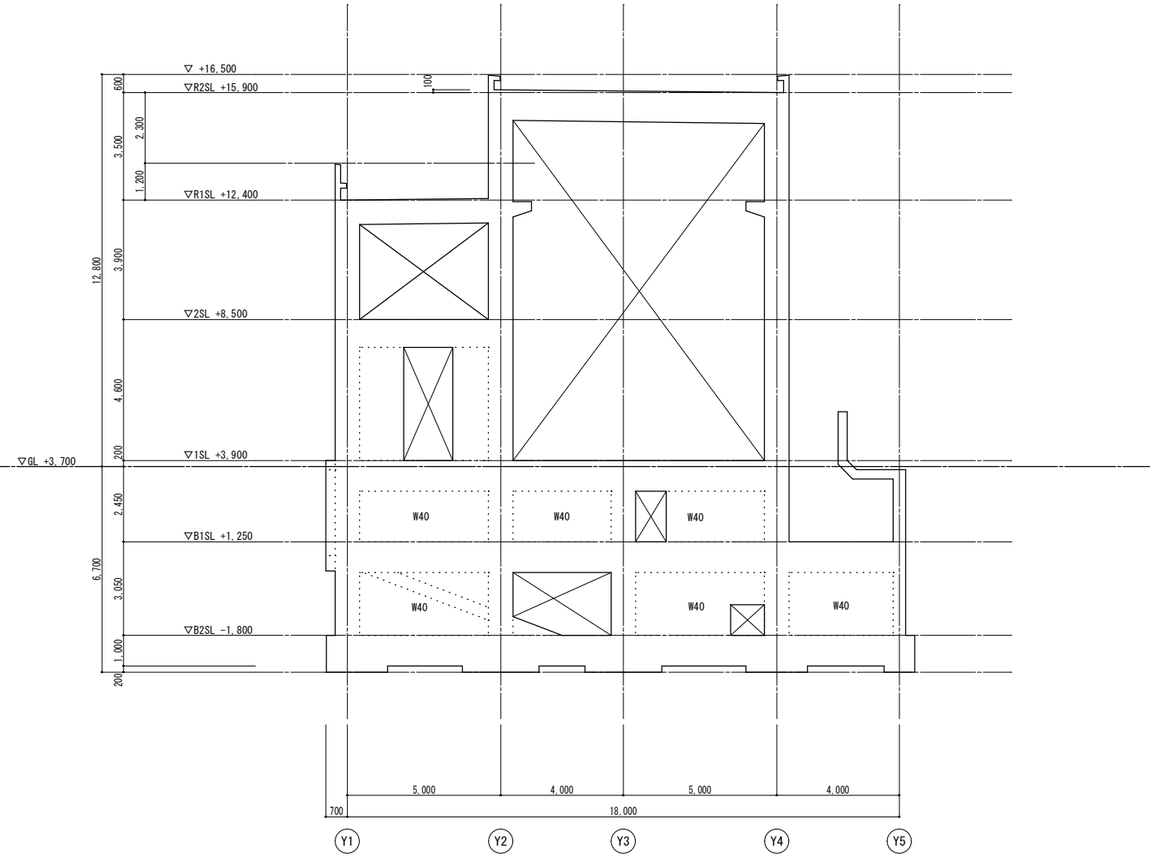


Ｒ１階平面図（改修後）　1/100

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修軸組図－１		
図面番号	S-08	縮尺	—



X1 通軸組図　1/100



X2 通軸組図　1/100

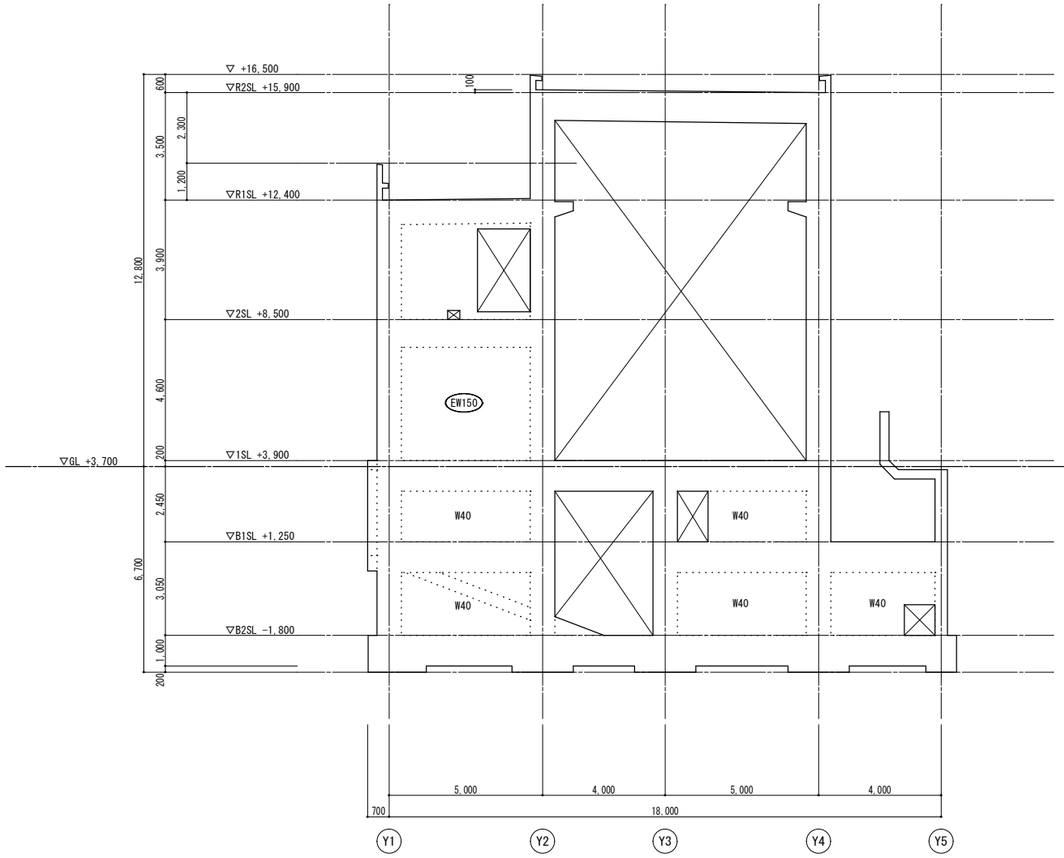
凡　例

Ｗ１　は新設壁

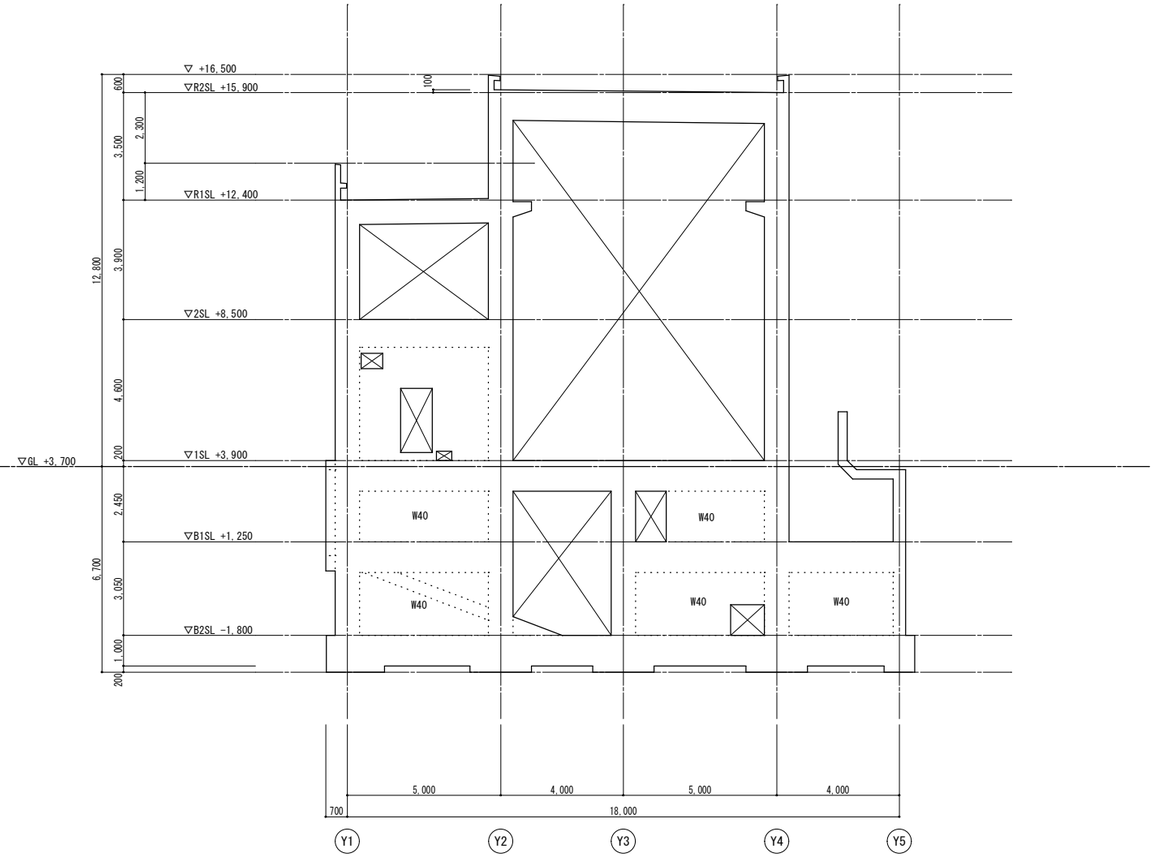
Ｇ１０　は新設梁

特記
- （　）内数値は増打又は新設壁厚を示す。
- ［　］内数値は閉鎖部分壁厚を示す。
- EW** は補強耐震壁符号を示す。
- EW*** は既存耐震壁扱い壁及び壁厚を示す。

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修軸組図－２		
図面番号	S-09	縮尺	1/100



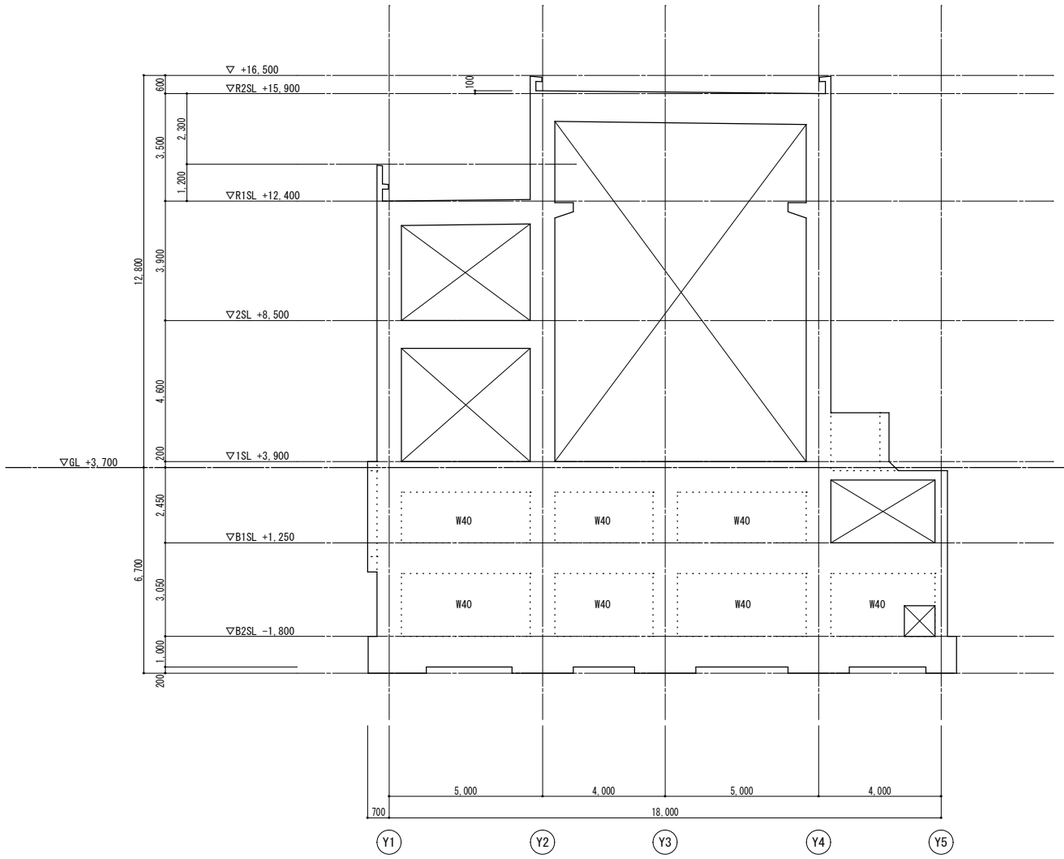
X3 通軸組図　1/100



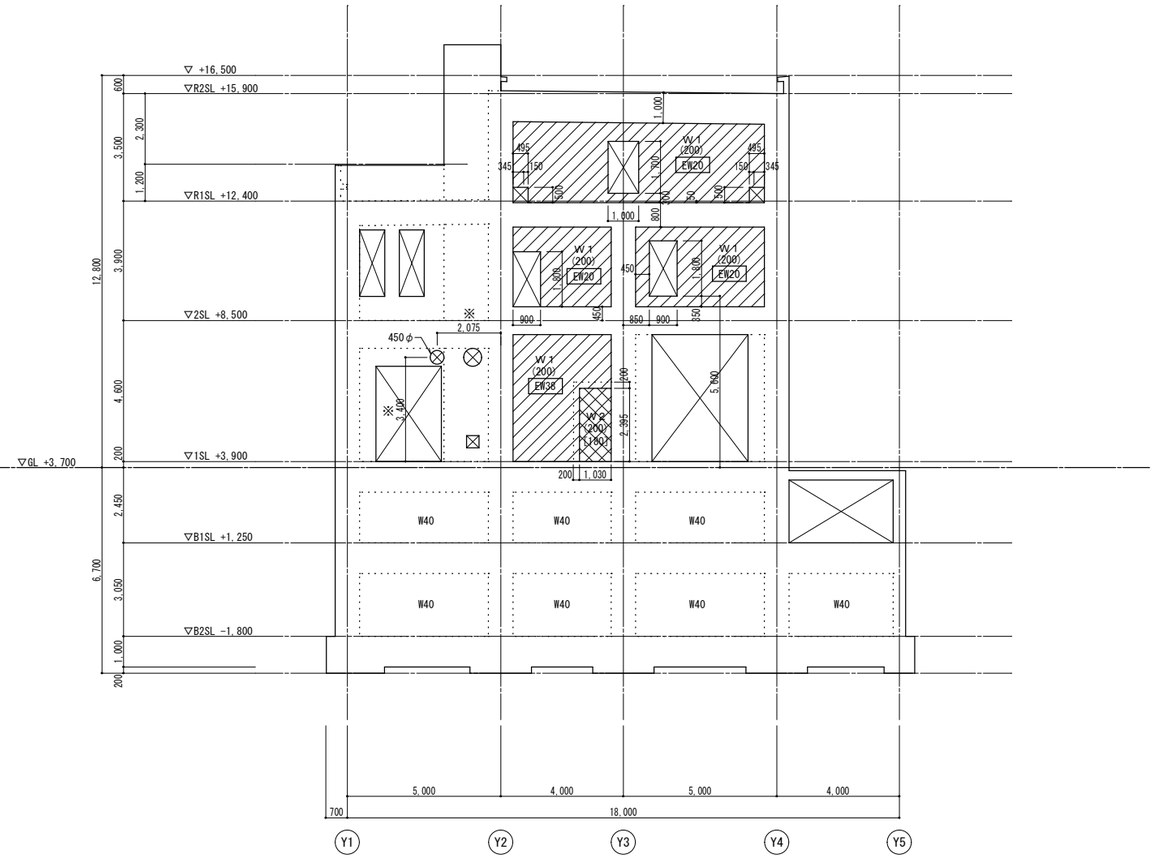
X4 通軸組図　1/100

特記
- ・(　)内数値は増打又は新設壁厚を示す。
- ・[　]内数値は閉鎖部分壁厚を示す。
- ・ EW** は補強耐震壁符号を示す。
- ・ EW*** は既存耐震壁扱い壁及び壁厚を示す。

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修軸組図－３		
図面番号	S-10	縮尺	1/100



X5 通軸組図　1/100



X6 通軸組図　1/100

特記　・※印寸法は現地状況確認の上決定する。

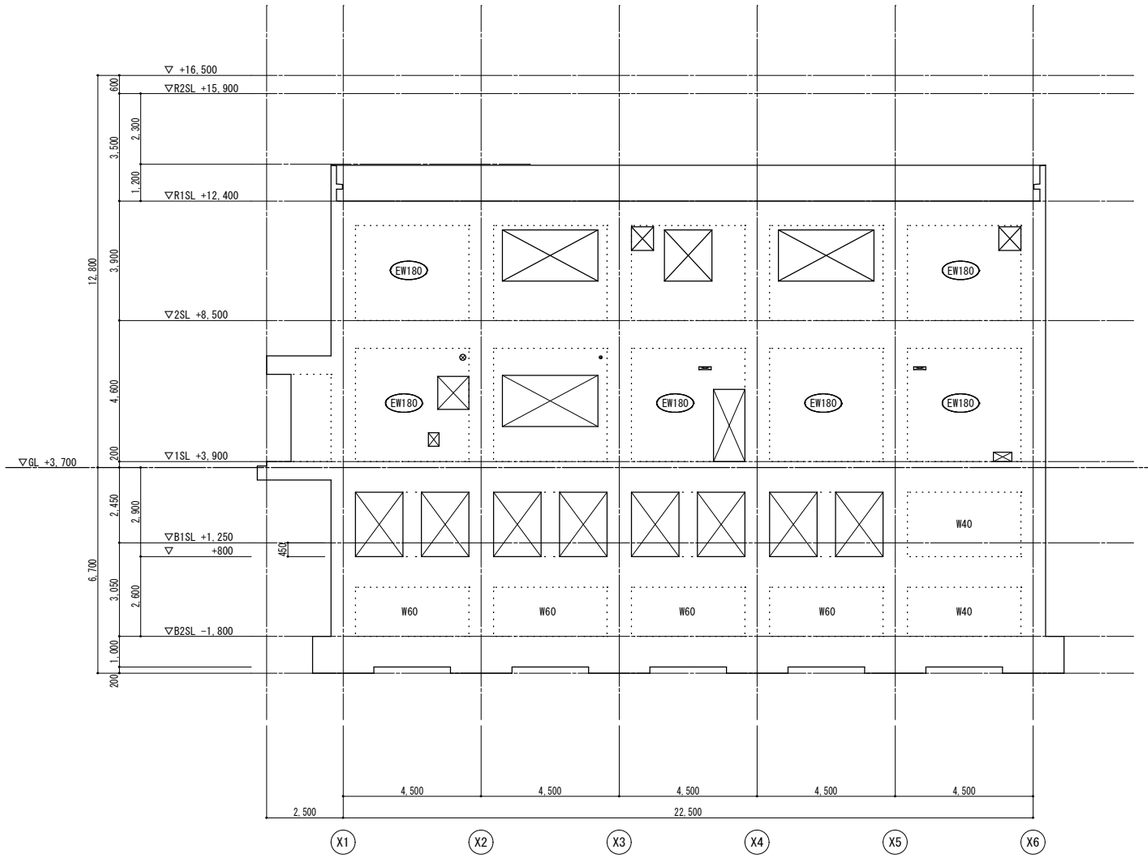
凡　例

W１　は増打壁又は新設壁

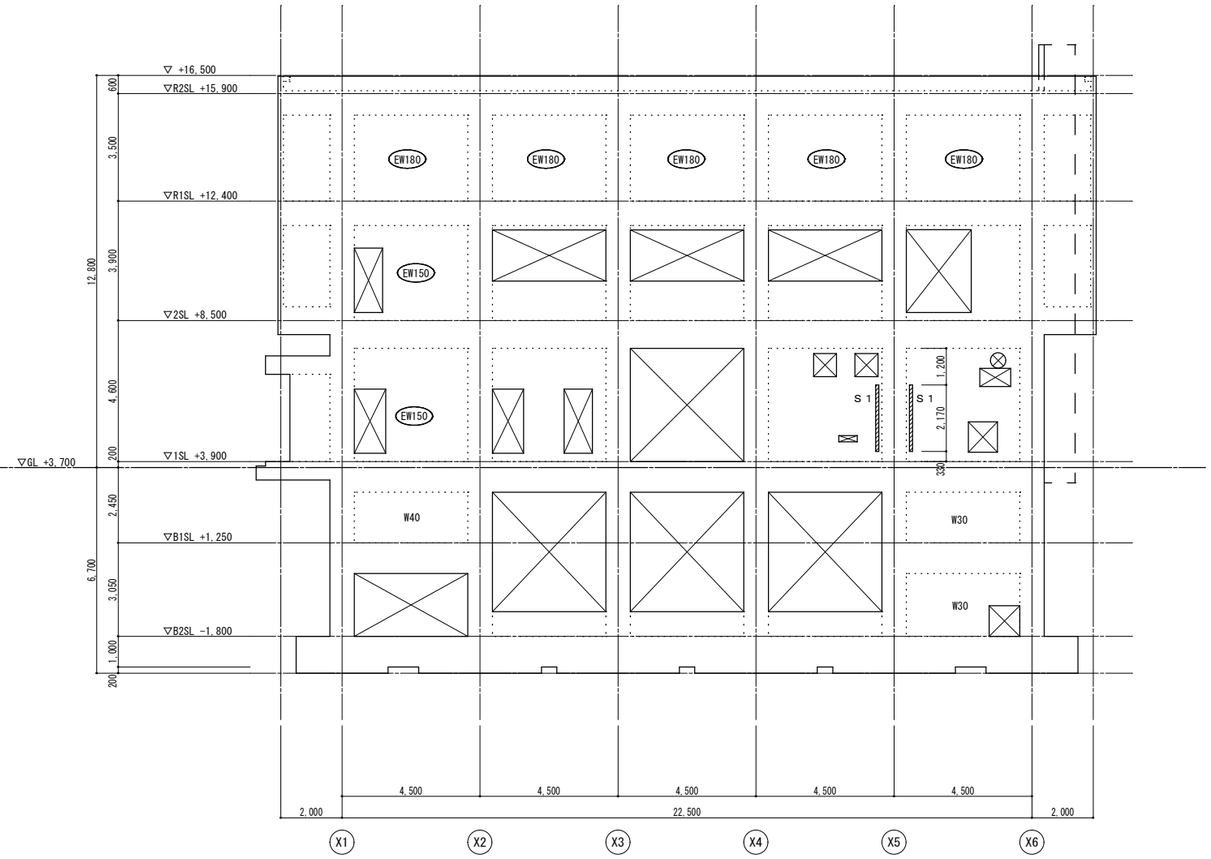
W２　は開口部閉鎖の上新設壁

特記　・(　)内数値は増打又は新設壁厚を示す。
・[　]内数値は閉鎖部分壁厚を示す。
・ EW** は補強耐震壁符号を示す。
・ EW*** は既存耐震壁扱い壁及び壁厚を示す。

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修軸組図－４		
図面番号	S-11	縮尺	1/100



Y1 通軸組図　1/100



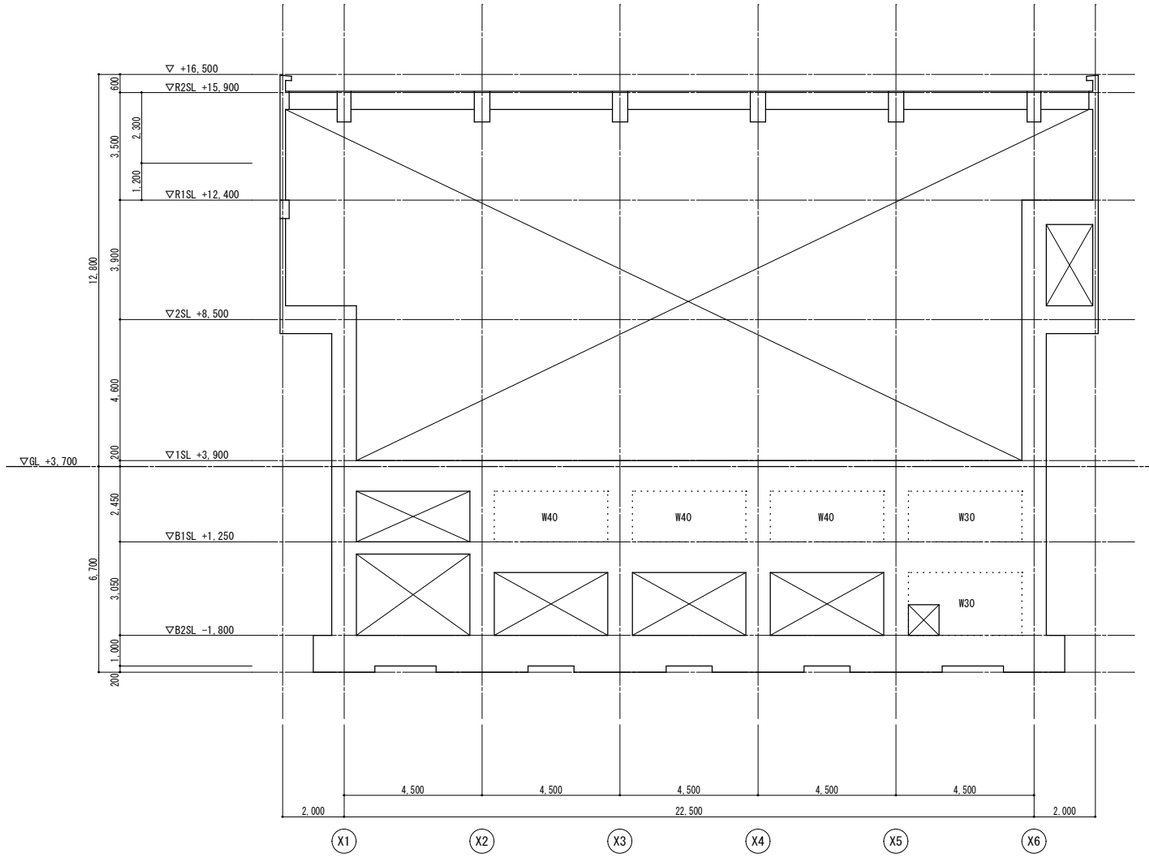
Y2 通軸組図　1/100

凡　例

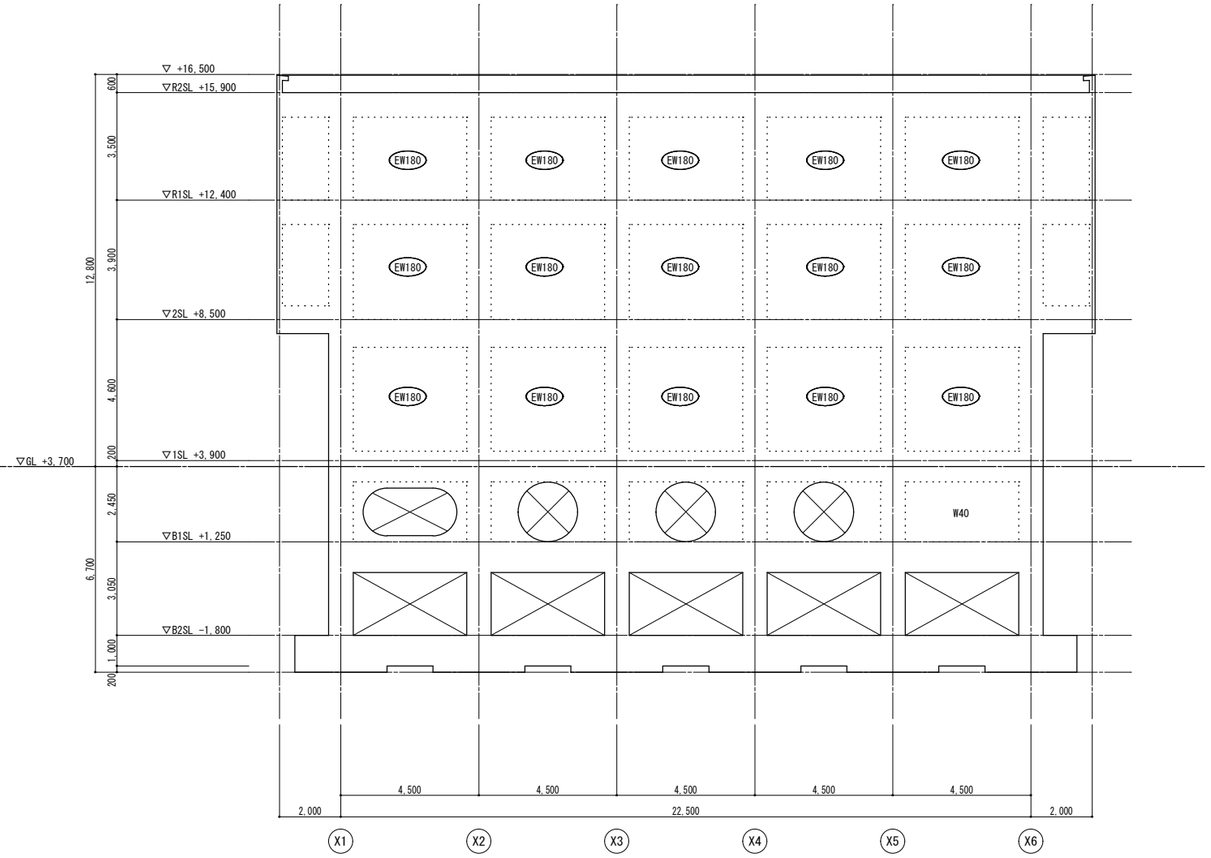
S 1　は構造スリット 新設　※スリット幅 W=h'/100

特記
- ( )内数値は増打又は新設壁厚を示す。
- [ ]内数値は閉鎖部分壁厚を示す。
- EW** は補強耐震壁符号を示す。
- EW*** は既存耐震壁扱い壁及び壁厚を示す。

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修軸組図－５		
図面番号	S-12	縮尺	1/100



Y3 通軸組図　1/100



Y4 通軸組図　1/100

特記
- ・(　)内数値は増打又は新設壁厚を示す。
- ・[　]内数値は閉鎖部分壁厚を示す。
- ・ EW** は補強耐震壁符号を示す。
- ・ EW*** は既存耐震壁扱い壁及び壁厚を示す。

改修工事特記仕様

1．使用鉄筋
　ＳＲ２３５　・・・（６φ）
　ＳＤ２９５Ａ・・・（Ｄ１０～Ｄ１６）
　ＳＤ３４５　・・・（Ｄ１９～）

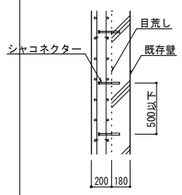
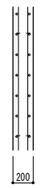
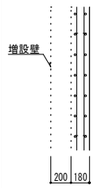
2．使用コンクリート
　設計基準強度　Fc＝21 N/mm²
　スランプ値　　18 N/mm²

3．接合アンカー・シヤーコネクタ
　接着樹脂系あと施工アンカー（カプセル型　ポリエステル系）
　接合筋・・・Ｄ１６（ＳＤ２９５Ａ）　　頭ナット付き
　　　　Ｄ１９～（ＳＤ３４５）　　頭ナット付き
　磁気探査によりコンクリート内鉄筋を避けた位置とし、専門業者の責任施工とする

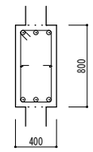
4．注意事項
　1）補強壁コンクリートは既存コンクリート下20cmまで打設し、頂部は無収縮モルタル圧入とする
　2）鉄筋の加工に際し、躯体を実測し実情にあった寸法に加工する
　3）新設コンクリートおよびモルタルは、既存仕上ＲＥ撤去後、既存部分を目荒しの上密実に施工する
　　目荒しは、平均深さ0.5～1.0程度の凹面を、その合計が打継ぎ面の3/4の面積以上となるように
　　全体にわたってつけることとし、壁増設のときは、その合計が既存壁面の1/3程度となるようにする
　4）基本的に、壁（厚さ１８０）に接する開口を閉塞する場合は既存壁をハツリ、既存鉄筋と溶接する
　　補修方法とし、梁や柱に接する開口を閉塞する補修方法は、接合アンカーによって補修する方法と
　　する。

壁リスト　1/30

特記　1．開口部補強筋、接着アンカーは図示による。
　　2．開口閉鎖壁の壁筋配置は既設配筋に準ずる。

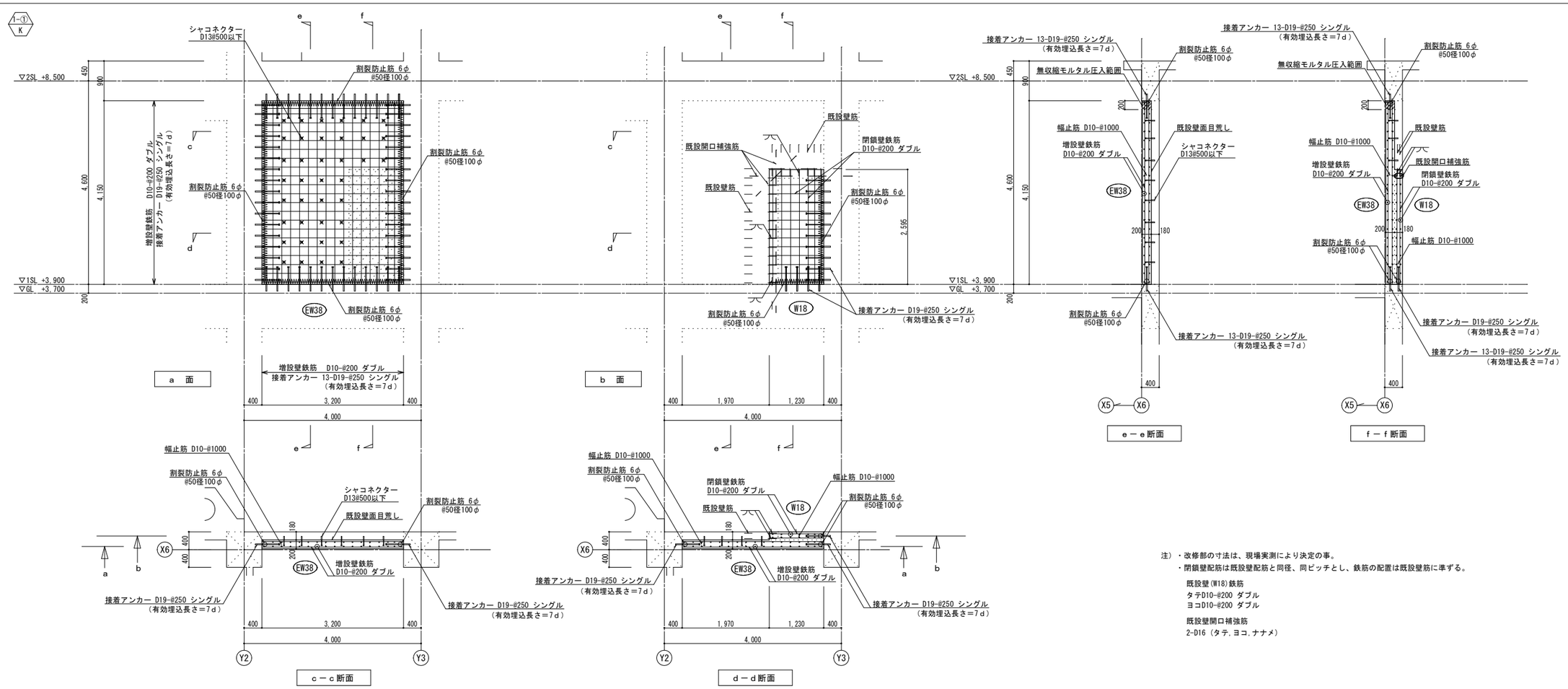
符　号		EW38（増設壁）	EW20（新設壁）	W18（開口閉鎖部）	W15（新設壁）
縦 断 面					
壁筋	縦　筋	D10 － @200 ダブル	D10 － @200 ダブル	D10 － @200 ダブル	D10 － @150 シングル
壁筋	横　筋	D10 － @200 ダブル	D10 － @200 ダブル	D10 － @200 ダブル	D10 － @150 シングル
幅 止 筋		D10 － @1,000以下	D10 － @1,000以下	D10 － @1,000以下	－
割裂防止筋		6φ @50 径100φ	6φ @50 径100φ	6φ @50 径100φ	－
シャコネクター		D13 － @500x500 以下	－	－	－

梁リスト　1/30

符　号	G10
位　置	全断面
断 面	
B x D	400 x 800
上 端 筋	3 － D25
下 端 筋	3 － D25
スターラップ	D13 － @200
腹 筋	2 － D10

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 壁リスト、梁リスト、改修配筋図－１		
図面番号	S-13	縮尺	1/30,1/50

1階 Ｘ６通 Ｙ２－Ｙ３通間壁配筋図（EW38：既存壁 t=180 + 増し打ち壁 t=200）　1/50



注）・改修部の寸法は、現場実測により決定の事。
　　・閉鎖壁配筋は既設壁配筋と同径、同ピッチとし、鉄筋の配置は既設壁筋に準ずる。

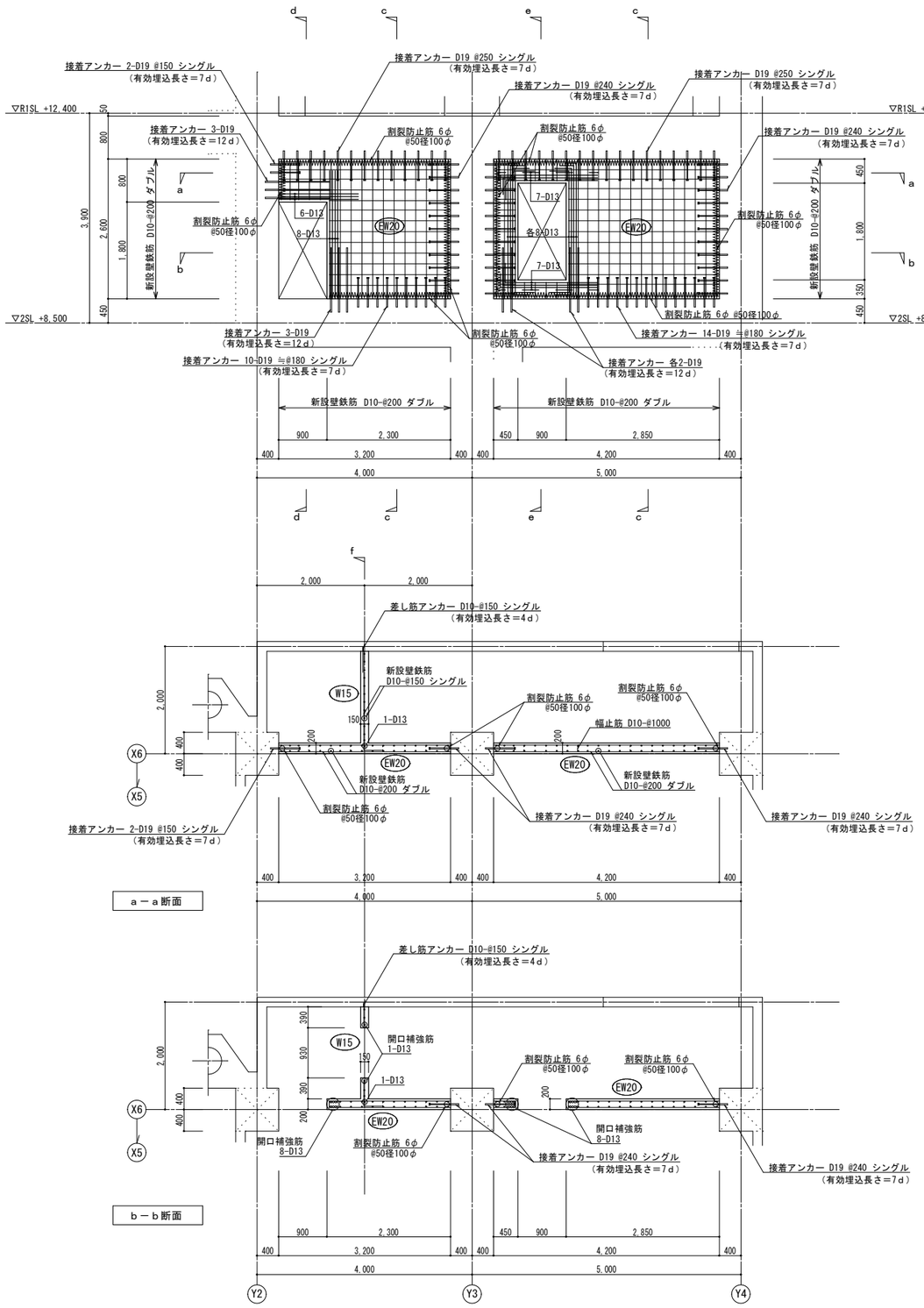
既設壁(W18)鉄筋
タテD10-@200 ダブル
ヨコD10-@200 ダブル

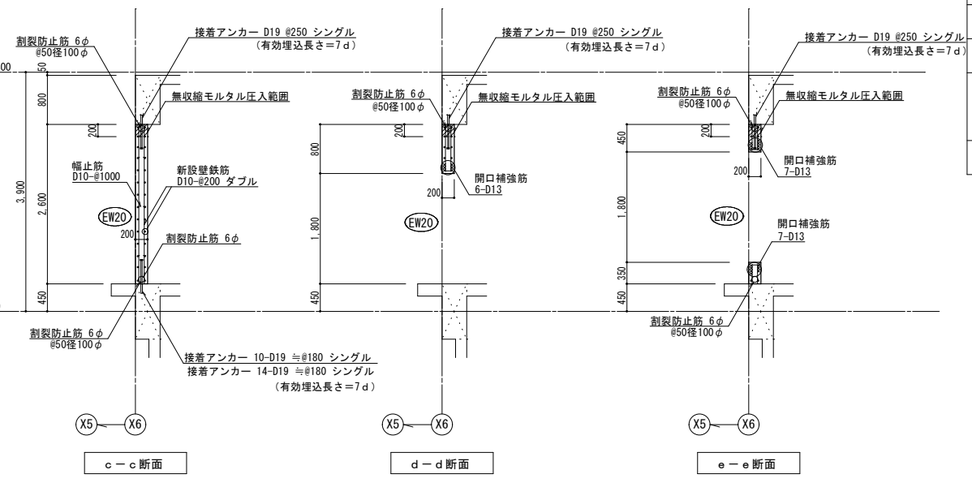
既設壁開口補強筋
2-D16（タテ,ヨコ,ナナメ）

２階 Ｘ６通 Ｙ２−Ｙ３−Ｙ４通間壁配筋図（新設壁：EW20、W15）　1/50

注）・改修部の寸法は、現場実測により決定の事。

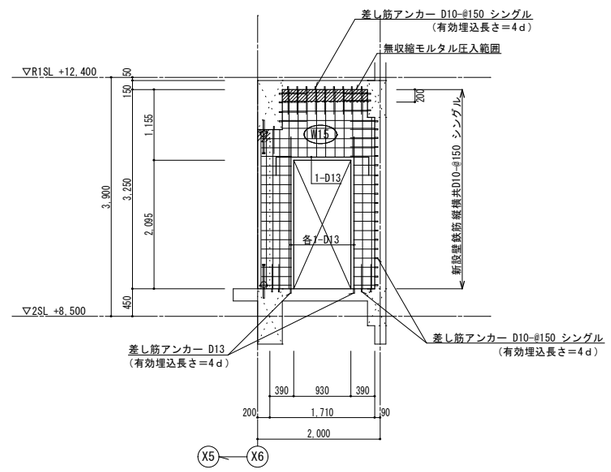
行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修配筋図－２		
図面番号	S-14	縮尺	1/50





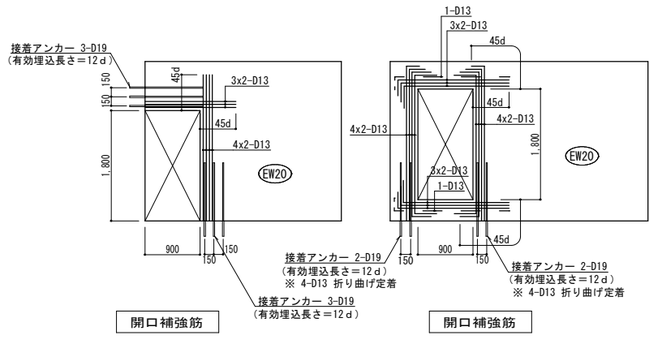
ｃ－ｃ断面　　ｄ－ｄ断面　　ｅ－ｅ断面

ａ－ａ断面



ｆ 面（W15）

ｂ－ｂ断面



開口補強筋　　開口補強筋

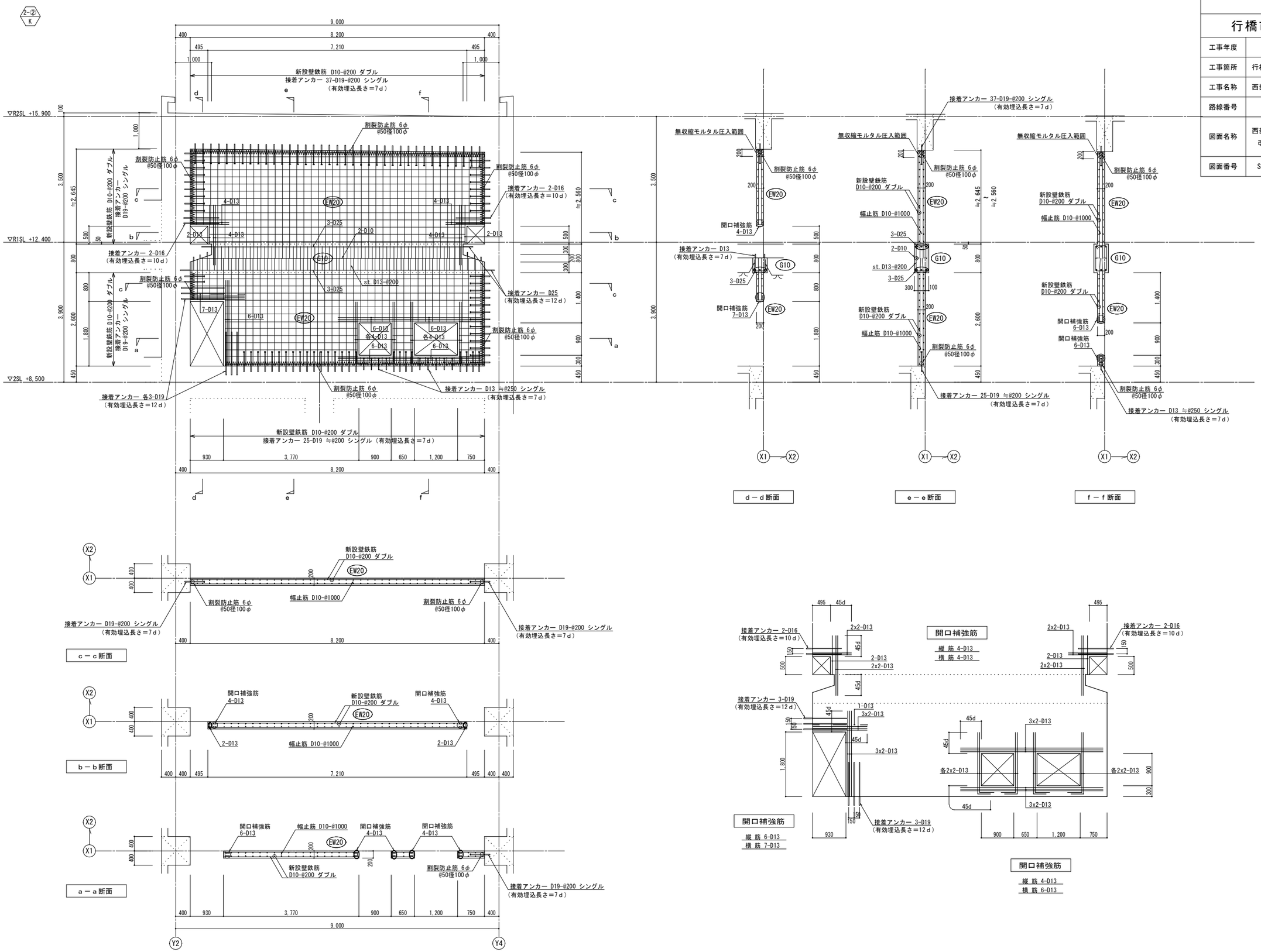
縦 筋 8-D13
横 筋 6-D13

縦 筋 8-D13
横 筋 7-D13

２階、Ｒ１階 Ｘ１通 Ｙ２－Ｙ４通間壁配筋図（新設壁：EW20） 1/50

注）・改修部の寸法は、現場実測により決定の事。

行 橋 市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 改修配筋図－３		
図面番号	S-15	縮尺	1/50



行橋市　公共下水道事業	工事設計図	令和　元年　１２月（全　４枚）

特記仕様書

Ⅰ．工事概要

１．工事場所　福岡県行橋市西宮市一丁目地内

２．建物概要

建　物　名　称	構　造	階　　数	建築基準法による延べ面積（㎡）	消防法施行令別表第一の区分	備　　考
西部ポンプ場	ＲＣ造	地上３階			

（（注）延べ面積は建築基準法による表記　）

３．工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）

建物別及び屋外 ＼ 工事種目	工　事　種　別					屋　外
	西部ポンプ場					
●　電灯設備	改修　一式					
●　動力設備	撤去　一式					
○　電気自動車用充電設備	一式					
○　電熱設備	一式					
○　雷保護設備	一式					
○　受変電設備	一式					
○　電力貯蔵設備	一式					
○　発電設備	一式					
○　構内情報通信網設備	一式					
○　構内交換設備	一式					
○　情報表示設備	一式					
○　映像・音響設備	一式					
○　拡声設備	一式					
○　誘導支援設備	一式					
○　テレビ共同受信設備	一式					
○　監視カメラ設備	一式					
○　駐車場管制設備	一式					
○　防犯・入退室管理設備	一式					
●　火災報知設備	改修　一式					
○　中央監視制御設備	一式					
○　構内配電線路						一式
○　構内通信線路						一式
○						
○						
○						
○						
○						

４．指定部分　○　無　　○　有（対象部分　　）

指定部分工期　　年　　月　　日

Ⅱ．工事仕様

１．共通仕様

１）図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。

●「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成３１年版）」（以下「標準仕様書」という。）

●「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成３１年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）

●「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（平成３１年版）」（以下「標準図」という。）

２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、機械設備工事の特記仕様書は（　ＡＭ－１　）図、建築工事の特記仕様書は（　Ａ－１　）図による。

２．特記仕様

項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。

項　　目	特　　記　　事　　項
○ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○　風圧力 風速（Vo＝ 34m／s　　） 地表面粗度区分（　Ⅲ　　） ○　積雪荷重 建設省告示第１４５５号における区域　別表（　３８　）
● 発生材の処理等について	●　引渡しを要するもの以外は、構外に搬出し適切処理とし、搬出処理費は別途とする。
○ 環境への配慮	（１）「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成３１年２月閣議決定）」による特定調達品目の場合は、判断の基準等を満たすものとする。 （２）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②　接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③　接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く。）が添加されていない材料を使用する。 ④　①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 （３）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。ただし、設計図書に規定がない場合は、監督職員と協議する。 ①　建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②　建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③　建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④　建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

項　　目	特　　記　　事　　項
● 機材の品質等	（１）本工事に使用する機材は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （２）下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①　品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②　生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③　安定的な供給が可能であること。 ④　法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤　製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥　販売、保守等の営業体制が整えられていること。

機材名	製造業者等名
・蛍光灯器具	
・ＬＥＤ照明器具（一般屋内用に限る）	
・照明制御装置	
・可変速運転用インバーター装置	
・分電盤	
・制御盤	
・キュービクル式配電盤	
・高圧スイッチギヤ（ＣＷ形）	
・高圧スイッチギヤ（ＰＷ形）	
・高圧交流遮断器	
・高圧進相コンデンサ	
・高圧限流ヒューズ	
・高圧負荷開閉器	
・高圧変圧器（特定機器）	
・交流無停電電源装置	
・太陽光発電装置（パワーコンディショナ及び系統連系保護装置）	
・監視カメラ装置	
・中央監視制御（監視制御装置）	
・	
・	
・	
・	

項　　目	特　　記　　事　　項
● 足場その他	●　別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。 ○　本工事で設置する。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり据置き方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行う。 ○　内部足場（　○　　種　○　　種　）　○　外部足場（　○　　種　○　　種　）
● 養生	既存部分の養生は、改修標準仕様書第１編第１章による。
● 施工図等	本工事で作成する施工図等のうち、次の原図及びその複写図（１部）を監督職員に提出する。 ただし、製作図等で原図として提出ができないものは、原図に代わるものとしてよい。 なお、施工図等の著作権に係る当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲する。 （　機器製作図　　一式 制御システム図　　一式 試験成績書　　一式 機器・配管固定の施工図　一式　）
● 完成図等	●　提出部数　（原図サイズ　●　Ａ１　○　　、複写図　２部） ＣＡＤデータの提出（　●　要（　１部）　○　不要　） 要の場合、オリジナルファイルも提出する。 ○　既存完成図（ＣＡＤデータ）の修正を行う。 ○　保全に関する資料 Ａ４ファイル綴じ　　部 ○　建築物等の利用に関する説明書 Ａ４ファイル綴じ　　部
● 施工調査	事前調査（　●　本工事　　○　別途　　） 調査項目（　○　既存資料調査　○　　） 調査範囲（　○　図示　　○　　） 調査方法（　○　図示　　○　　）
○ 電源周波数	50Hz
● 耐震措置	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針　２０１４年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。 （１）設計用水平地震力 機器の重量［ｋＮ］に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。

設計用標準水平震度

機器種別		○　特定の施設		○　一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	機器	２０	１.５	１.５	１.０
	防振支持の機器	２０	２０	２０	１.５
	水槽類	２０	１.５	１.５	１.０
中間階	機器	１.５	１.０	１.０	Ｏ６
	防振支持の機器	１.５	１.５	１.５	１.０
	水槽類	１.５	１.０	１.０	Ｏ６
地下、１階	機器	１.０	Ｏ６	Ｏ６	Ｏ４
	防振支持の機器	１.０	１.０	１.０	Ｏ６
	水槽類	１.５	１.０	１.０	Ｏ６

【備考】・上層階とは２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は３階、１３階以上の場合は上層４階とする。
・中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの

重要機器は次のものを示す。
○　配電盤　○　発電装置（防災用）　○　直流電源装置　○　交流無停電電源装置
○　交換機　○　自動火災報知受信機　○　中央監視制御装置　○

（２）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

項　　目	特　　記　　事　　項
○ はつり	はつり工事は、事前に以下の調査を行い、監督職員に報告を行うこと。 （○走査式埋設物調査　　○Ｘ線調査（費用は別途とする）） ○ 天井仕上区分　（　）書きの室名は直天井の室を示し、それ以外は二重天井の室を示す。
● 電気工事士	最大電力が５００［ｋＷ］以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。

項　　目	特　　記　　事　　項
○ 仮設備工事	仮電源　（　○　受変電　　） （　○　発電　　） 仮設備能力（　○　図示　　）
● 配管本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の２次側以降の配線経路、電線本さ、電線本数、管径等は、図面と相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督職員の承諾を受ける。
○ フラッシュプレート	フラッシュプレートは、図面に記載がない場合、 （　○　金属製（ステンレス、新金属を含む）　○　樹脂製　）　とする。
○ 金属管の塗装	下記の露出配管は塗装を行う。 （　○　屋外の配管　　○　　）
○ インバータ装置の規約効率	三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力（ｋＷ）	０.４	０.７５	１.５	２.２	３.７	５.５	７.５	１１	１５	１８.５	２２	３０	３７	４５
規約効率（％）	８６.０	８８.５	９２.０	９３.０	９４.０	９４.０	９４.５	９４.５	９５.０	９５.５	９５.５	９５.５	９５.５	９５.５

【備考】（１）規約効率は、ＪＥＭ－ＴＲ　２４５　「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
（２）規約効率は、ＪＩＳ　Ｃ　４２１２　「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧２００Ｖ、ＩＰ４Ｘ、６極、５０Ｈｚの電動機を駆動したときの値とする。

項　　目	特　　記　　事　　項
○ 機器取付高さ	図面に記載がない場合は、表－１「機器標準取付高さ」による。
○ 接地極	図面に記載がない場合は、表－２「接地極一覧表」による。
● 他工事又は他工種との取り合い	図面に記載がない場合は、工事区分表による。

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 建築付帯電気設備　特記仕様書		
図面番号	AE-01	縮尺	―

表－１　機器標準取付高さ

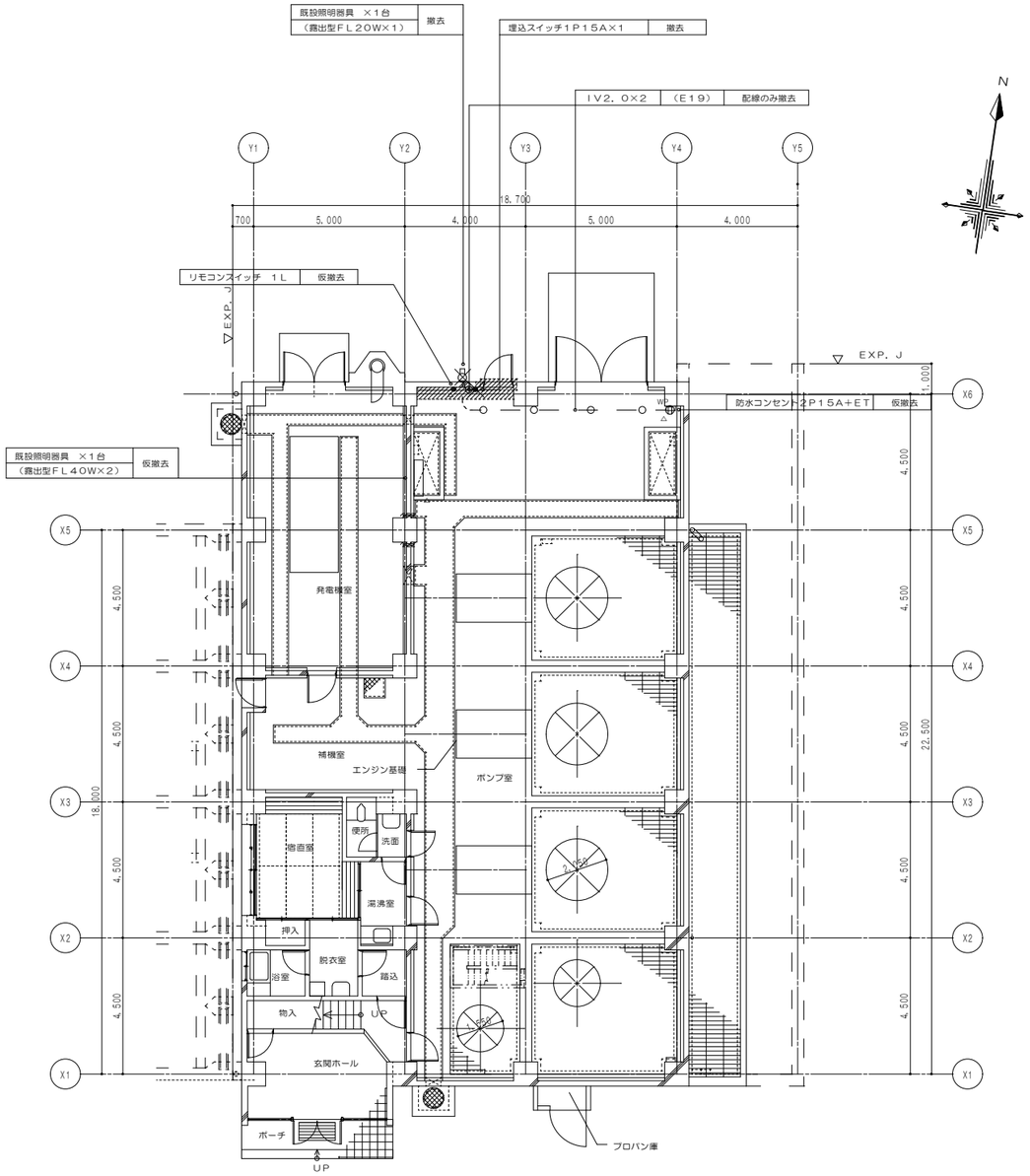
名称		測点	取付高［mm］	名称		測点	取付高［mm］
動力設備	積算計器	地上～窓中心	１.８００~２.０００	時計	壁掛形親時計	床上～中心	１,５００（上端１，９００以下）
	引込開閉器	地上～中心	１.８００~２.２００		子時計	〃	（天井高３０．９
	分電盤	床上～中心	１,５００（上端１，９００以下）		壁掛形スピーカ	〃	（天井高３０．９
				時計	壁付アッテネータ	〃	１,３００
電灯	スイッチ	床上～中心	１,３００				
	〃　（多機能トイレ）	〃	１,１００	拡声・インターホン	情報表示盤	床上～中心	（天井高３０．９
	コンセント（一般）	〃	３００		壁付発信機	〃	１,３００
	〃　（和室）	〃	１５０		ベル、ブザー、チャイム	〃	２,３００
	〃　（台上）	台上～中心	１５０~２００		壁付押しボタン（一般）	〃	１,３００
	〃　（車椅子用）	床上～中心	９００				
	ブラケット（一般）	〃	２.１００~２.３００				
	〃　（鏡廻）	〃	２.０００~２.５００				
	〃　（鏡上）	鏡上端～中心	１５０				
				誘導支援	外部受付用インターホン（子機）	「標準図」による。	
					壁付インターホン（上記以外）	床上～中心	１,３００
					壁付呼出ボタン（多機能トイレ）	〃	９００
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	１,５００（上端１，９００以下）	テレビ共同受信			
					機器収容箱	天井下～上端	２００
	開閉器箱	〃	１,５００		テレビ端子割りユニット（一般）	床上～中心	３００
	制御用スイッチ	〃	１,３００		〃　（和室）	〃	１５０
機械設備	端子盤（室内）	床上～下端	３００	監視カメラ			
	集合保安器箱	天井下～上端	２００				
	壁付電話機（一般）	床上～中心	１,３００	自動火災報知	受信機・副受信機	床上～操作部	８００~１,５００
					機器収容箱	〃	８００~１,５００
					発信機	床上～中心	８００~１,５００
					警報ベル	〃	２,３００
					表示灯	〃	２,１００
					液化石油ガス検知器	床上～上端	３００

注）　天井高３，０００mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。

表－２　接地極一覧表

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
○　共同接地	$E_{A・B・C・D}$	Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　共同接地	$E_{A・C・D}$	１０Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　Ａ種	E_A	１０Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　Ｂ種	E_B	Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　Ｃ種	E_C	１０Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　Ｄ種	E_D	１００Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=10，Ｌ=1，000 又は W=30，Ｌ=900 ）×１
○　Ｄ種	E_D	Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　高圧避雷器用	E_{LH}	１０Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　交換装置用	E_t	１０Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　通信用（１０Ω）	E_{At}	１０Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=14，Ｌ=1，500 又は W=40，Ｌ=1，200 ）×３連－ 組
○　通信用（１００Ω）	E_{Dt}	１００Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=10，Ｌ=1，000 又は W=30，Ｌ=900 ）×１
○　電話引込口の保安器	E_{Lt}	１００Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=10，Ｌ=1，000 又は W=30，Ｌ=900 ）×１
○　測定用	E_D	Ω以下	ＥＢ（ Ｄ=10，Ｌ=1，500 又は W=30，Ｌ=1，200 ）×１

改修前

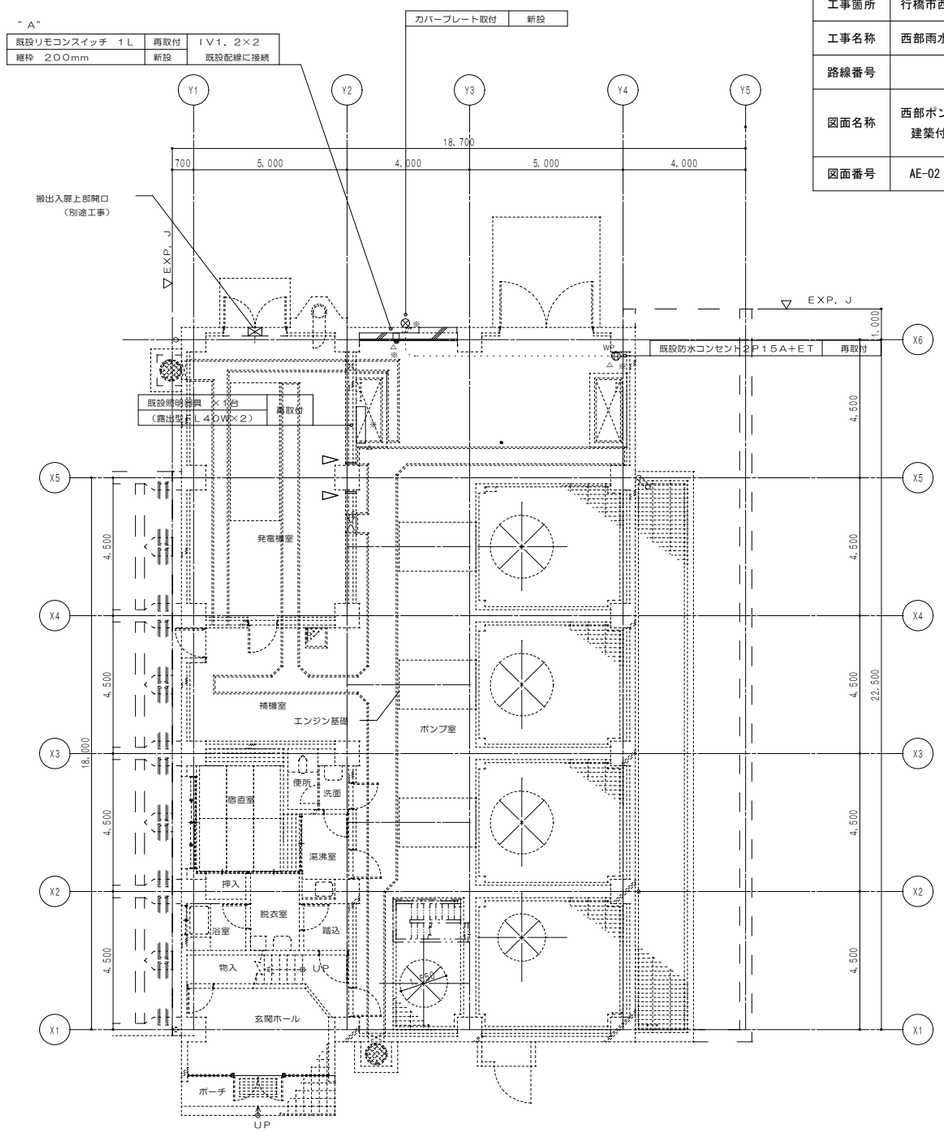


（改修前）

１階平面図　１／１００

施工凡例	
×　×	配管・配線撤去を示す
○　○	配線のみ撤去を示す
	既設器具撤去を示す
△	既設器具仮撤去（再使用）を示す
	既設のまま流用を示す

改修後

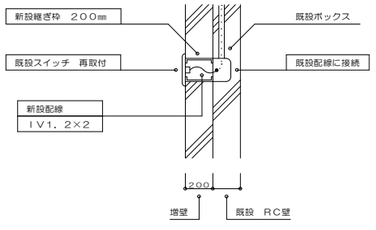


（改修後）

１階平面図　１／１００

施工凡例	
	新設配管配線
	新設器具を示す
△	既設器具再取付を示す
※	既設位置に器具取付を示す
	既設を示す

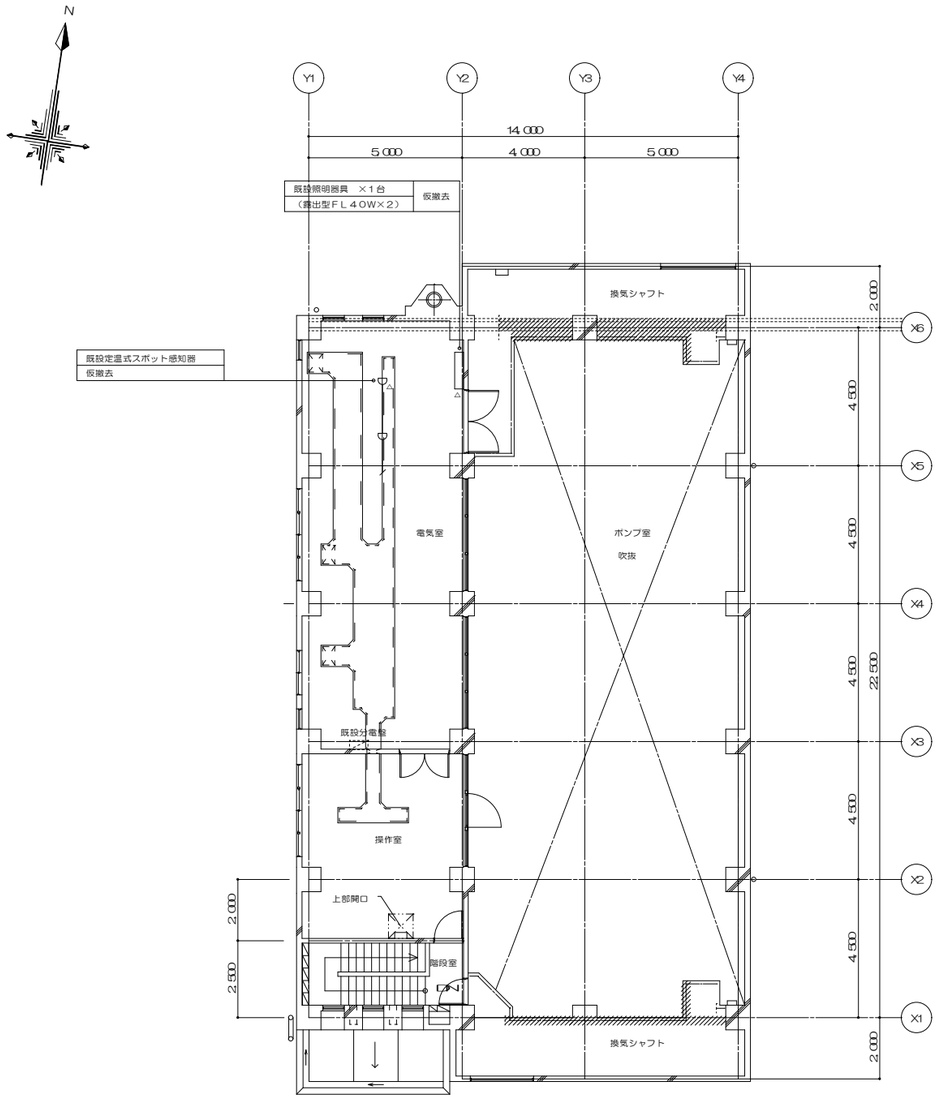
"A"　継枠施工要領	増壁



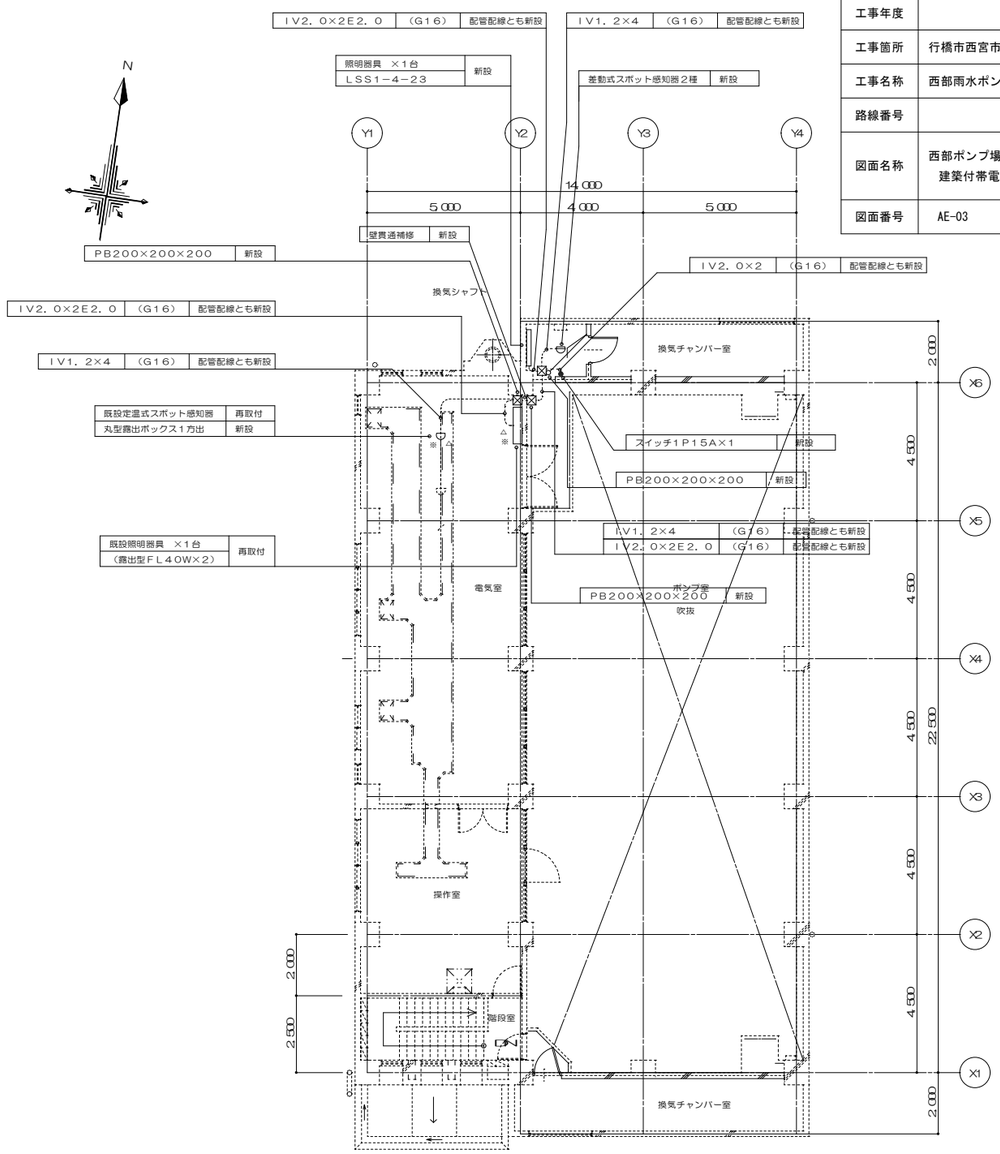
行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 建築付帯電気設備　１階改修平面図		
図面番号	AE-02	縮尺	1/100

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 建築付帯電気設備　２階改修平面図		
図面番号	AE-03	縮尺	1/100

改修前



改修後



（改修前）

２階平面図　1／100

施工凡例	
―×―×―	配管・配線撤去を示す
―○―○―	配線のみ撤去を示す
×（△）	既設器具撤去を示す
□（△）	既設器具仮撤去（再使用）を示す
――――	既設のまま流用を示す

施工凡例	
――――	新設配管配線
□	新設器具を示す
□（△）	既設器具再取付を示す
□（※）	既設位置に器具取付を示す
------	既設を示す

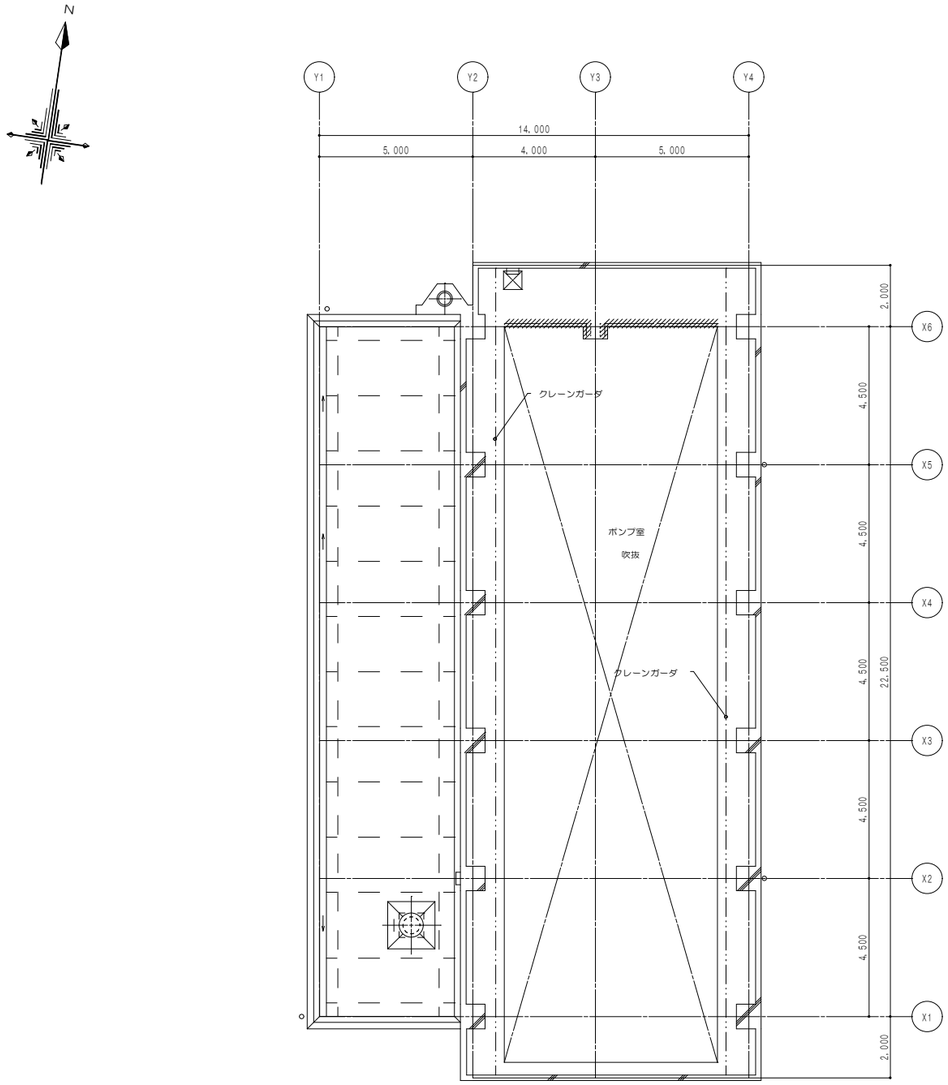
（改修後）

２階平面図　1／100

LSS1－4－23	LED 2350lm

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 建築付帯電気設備　Ｒ１階改修平面図		
図面番号	AE-04	縮尺	1/100

改修前

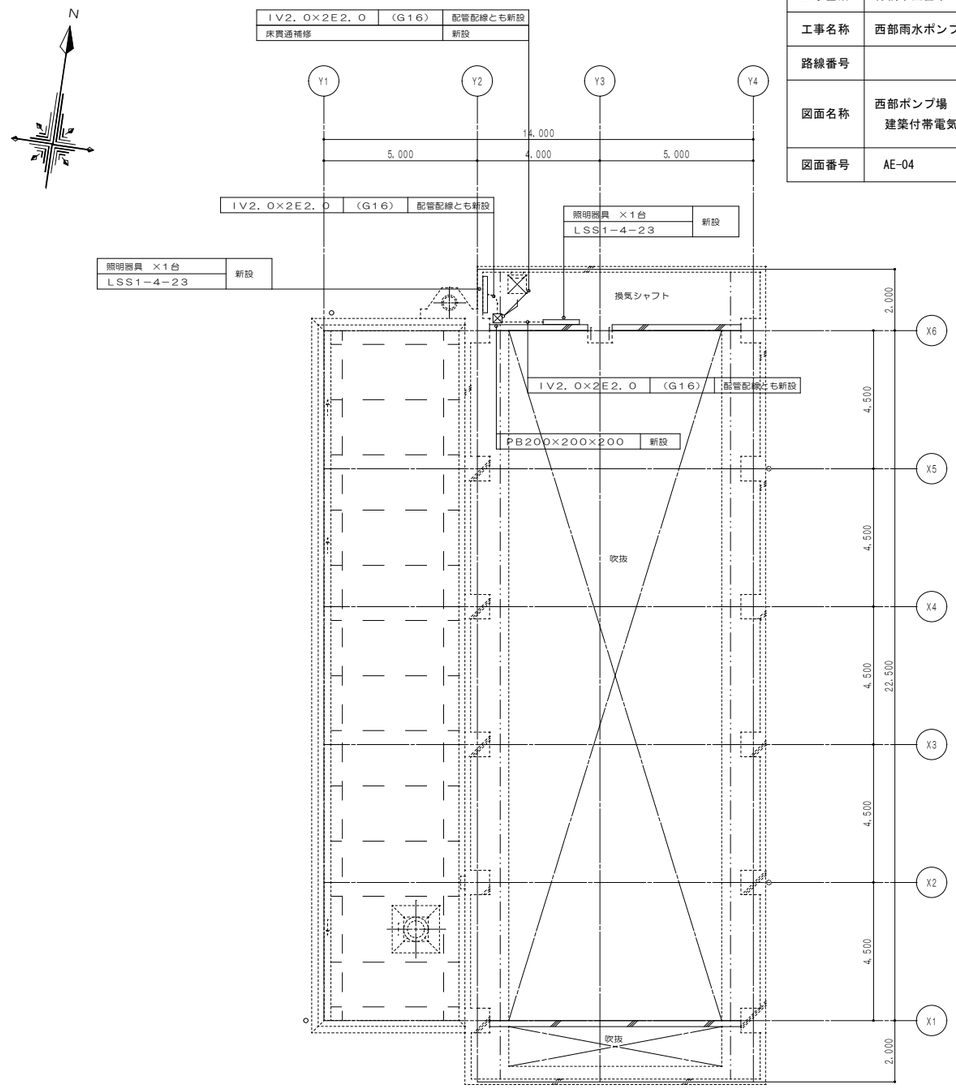


（改修前）

Ｒ１階平面図　１／１００

施工凡例	
	配管・配線撤去を示す
	配線のみ撤去を示す
	既設器具撤去を示す
△	既設器具仮撤去（再使用）を示す
	既設のまま流用を示す

改修後



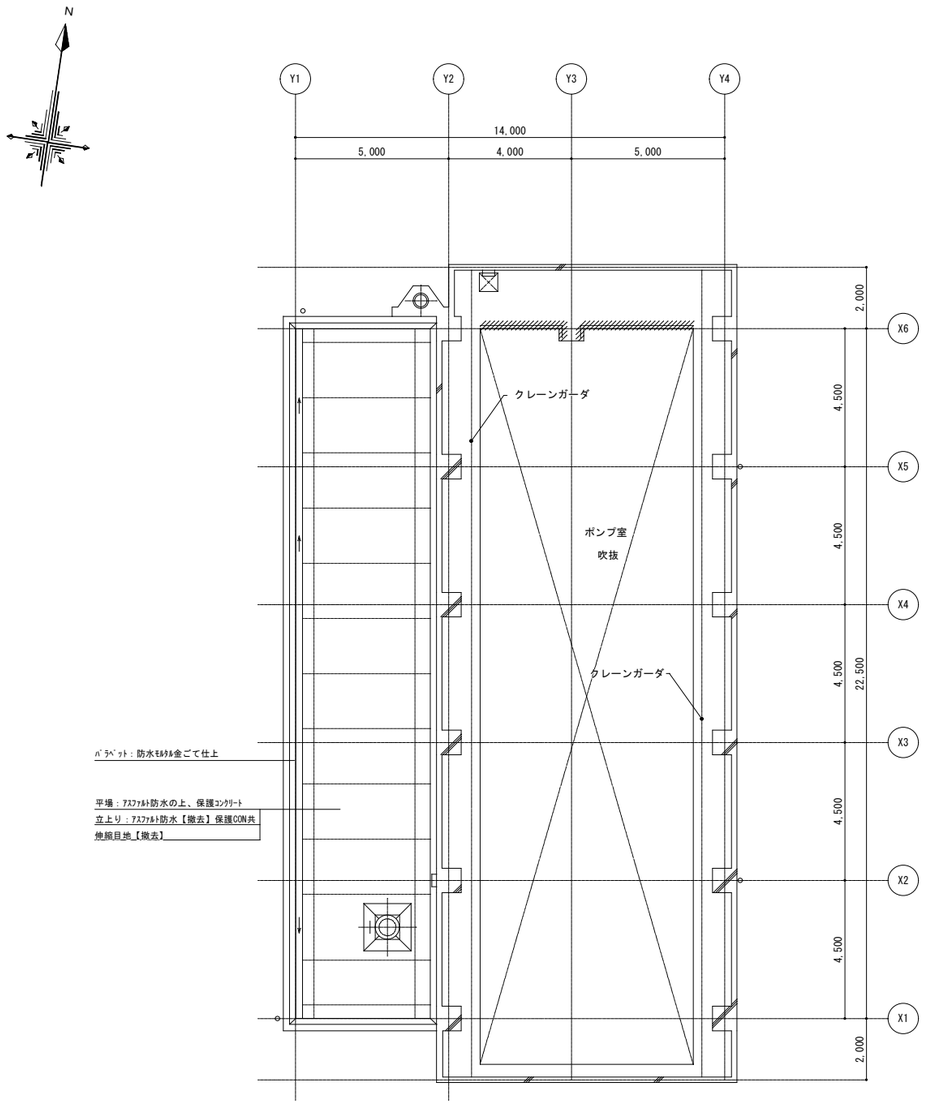
施工凡例	
	新設配管配線
	新設器具を示す
△	既設器具再取付を示す
※	既設位置に器具取付を示す
	既設を示す

（改修後）

Ｒ１階平面図　１／１００

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 防水改修平面図（R1階）		
図面番号	A-01	縮尺	1/100

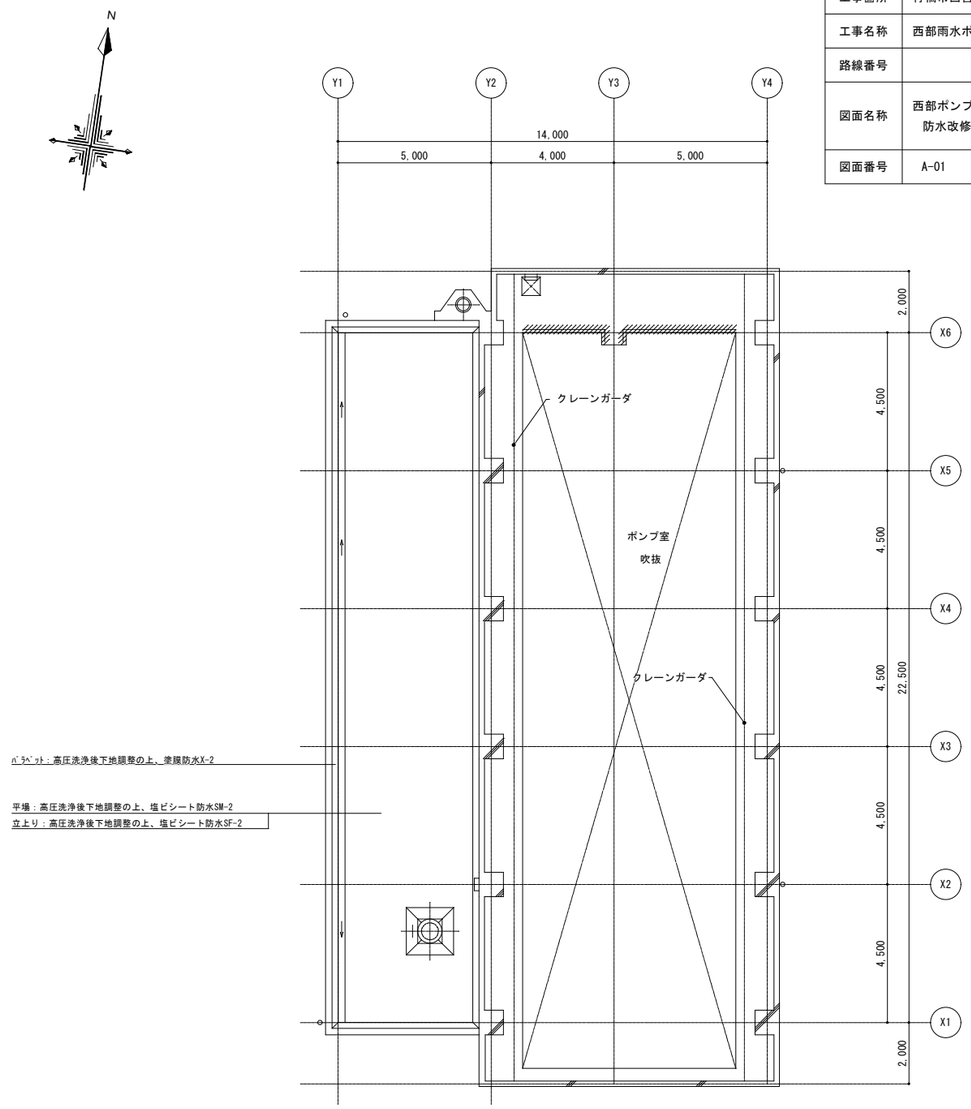
改修前



（改修前）

R１階平面図　1/100

改修後

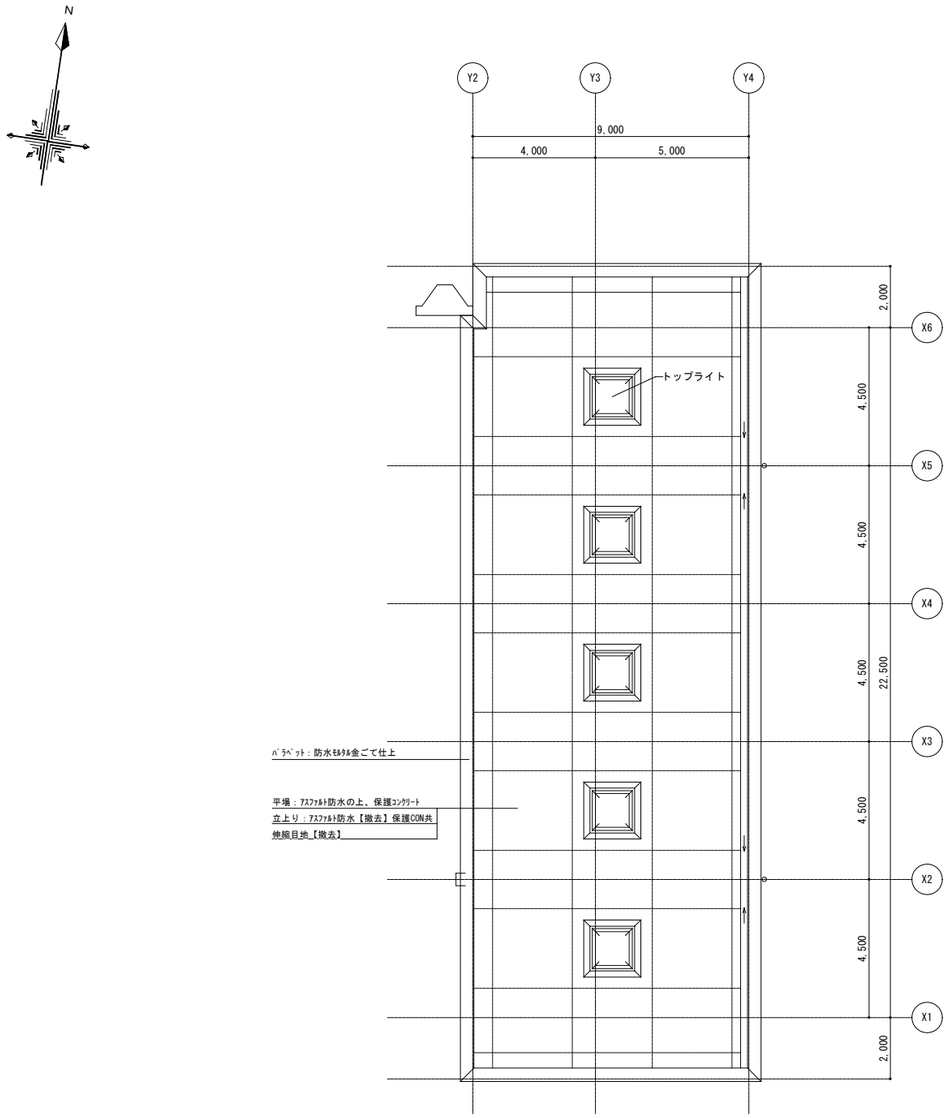


（改修後）

R１階平面図　1/100

行　橋　市			
行橋市公共下水道事業			
工事年度			
工事箇所	行橋市西宮市一丁目702番地13		
工事名称	西部雨水ポンプ場耐震改修及び防水改修工事		
路線番号			
図面名称	西部ポンプ場 防水改修平面図（R2階）		
図面番号	A-02	縮尺	1/100

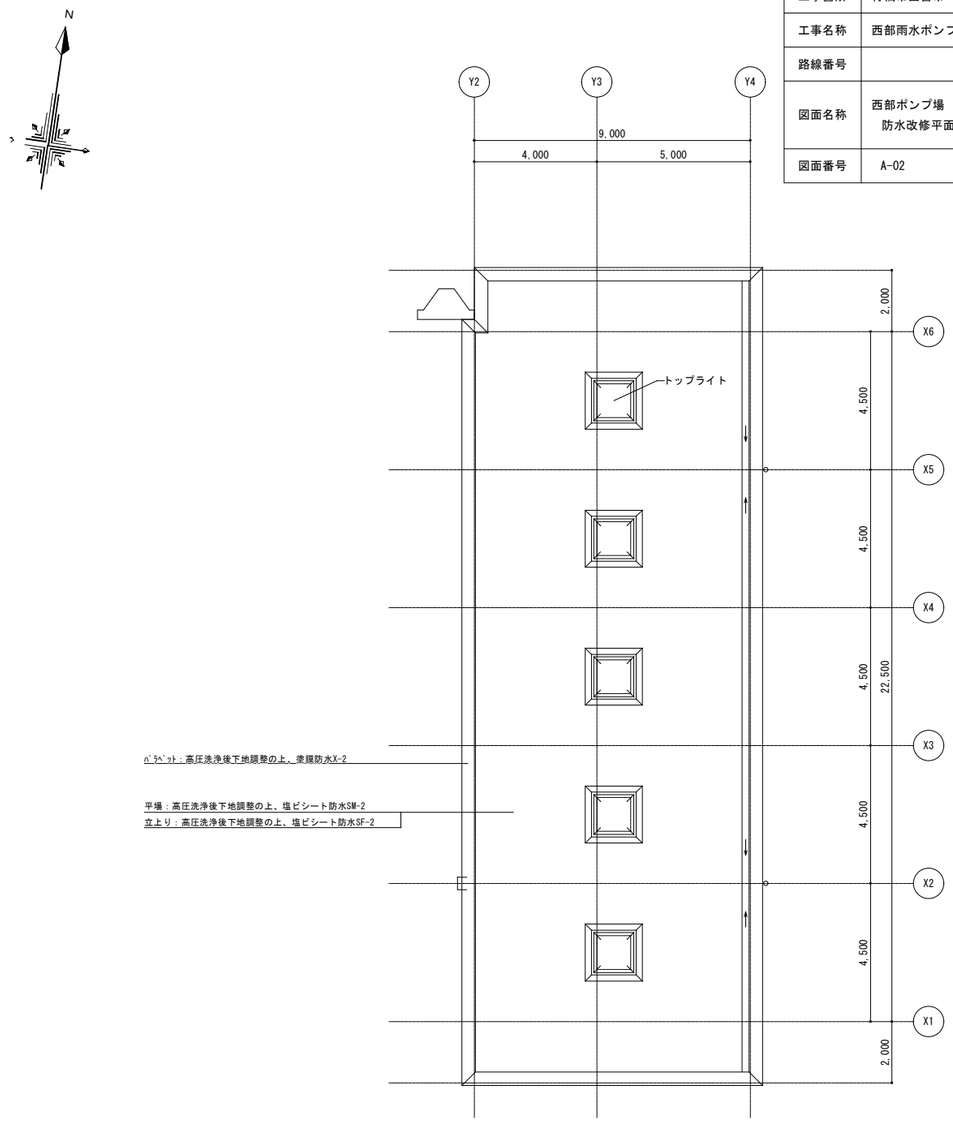
改修前



（改修前）

R２階平面図　1/100

改修後



（改修後）

R２階平面図　1/100